

紀の川市長期総合計画後期基本計画等に係る市民意識調査結果

1. 調査の概要

①調査の目的

- ・紀の川市長期総合計画の後期基本計画を策定するにあたり、市民の意見や希望を反映させていくためにアンケート調査を実施した。

②調査方法

- ・郵送による配布、回収

③調査期間

- ・平成 23 年 12 月～平成 24 年 1 月

④調査対象者

- ・平成 23 年 11 月 30 日現在、紀の川市に居住する 2,000 人（無作為抽出）

⑤回収結果

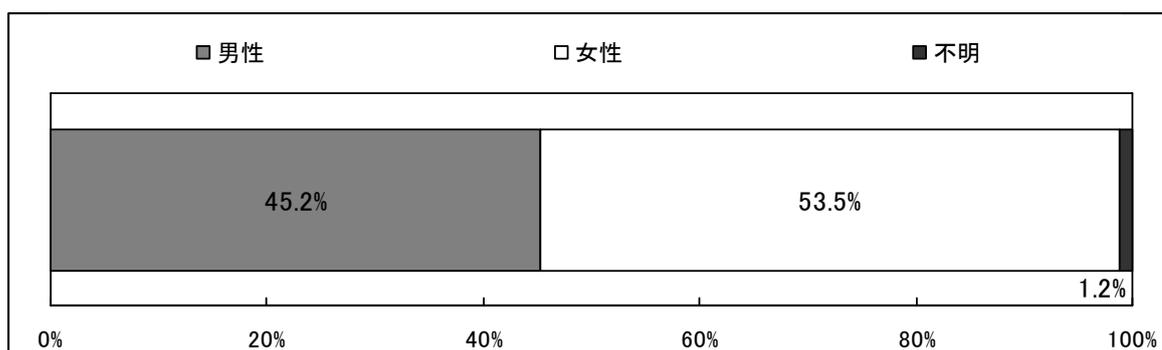
- ・回収数は 807 票で回収率は 40.4%である。

配布数	2, 000 票
回収数	807 票
回収率	40.4%

2. 回答者の属性

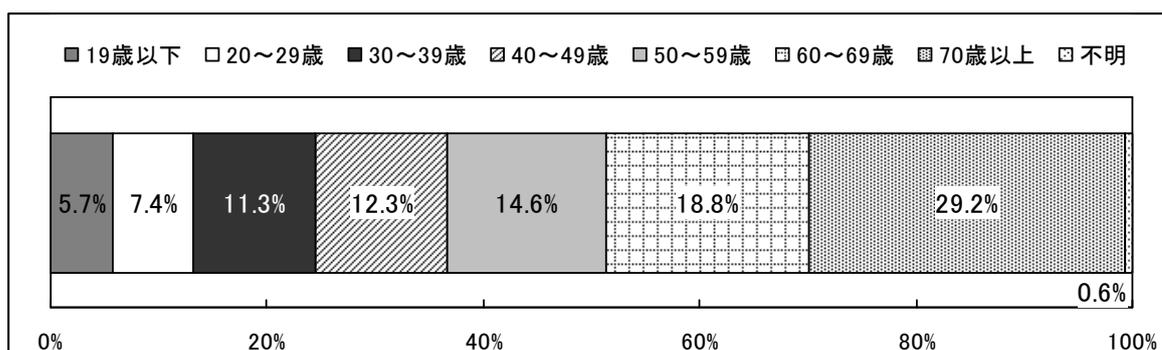
①性別

- ・回答者は女性が男性よりやや多くなっている。

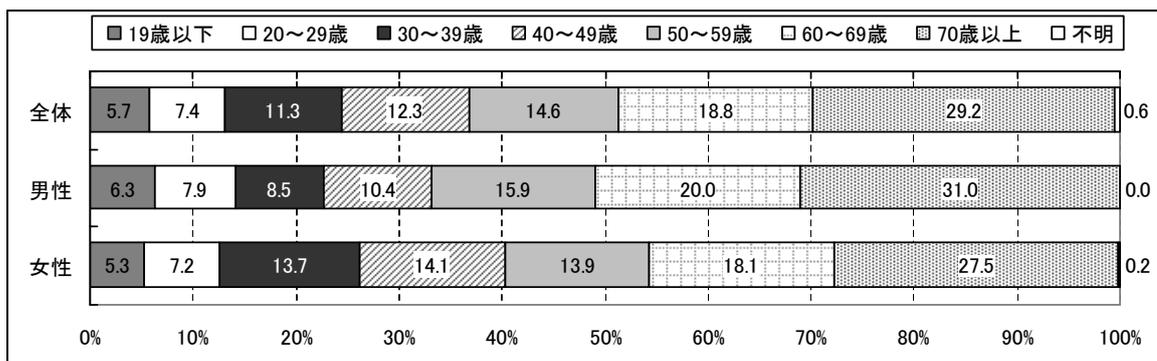


②年齢層

- ・回答者は、70歳以上の割合が高く約3割を占める。19歳以下は5.7%、20歳代は7.4%と他の年齢層より割合が低くなっている。全体の6割以上が50歳代以上からの回答となっている。
- ・回答者の性別年齢層構成をみると、女性より男性で高齢層の回答者が多く、男性では60歳以上が半数を超える。女性では男性より30歳代、40歳代からの回答割合が高くなっている。

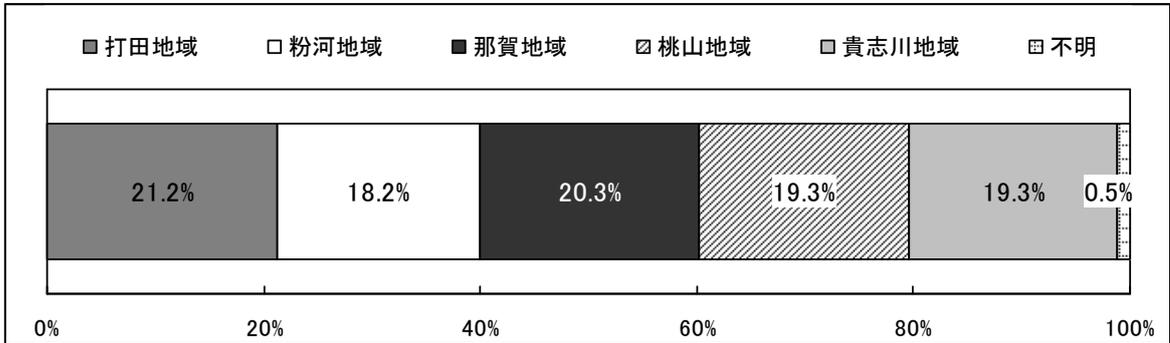


[性別年齢層構成]

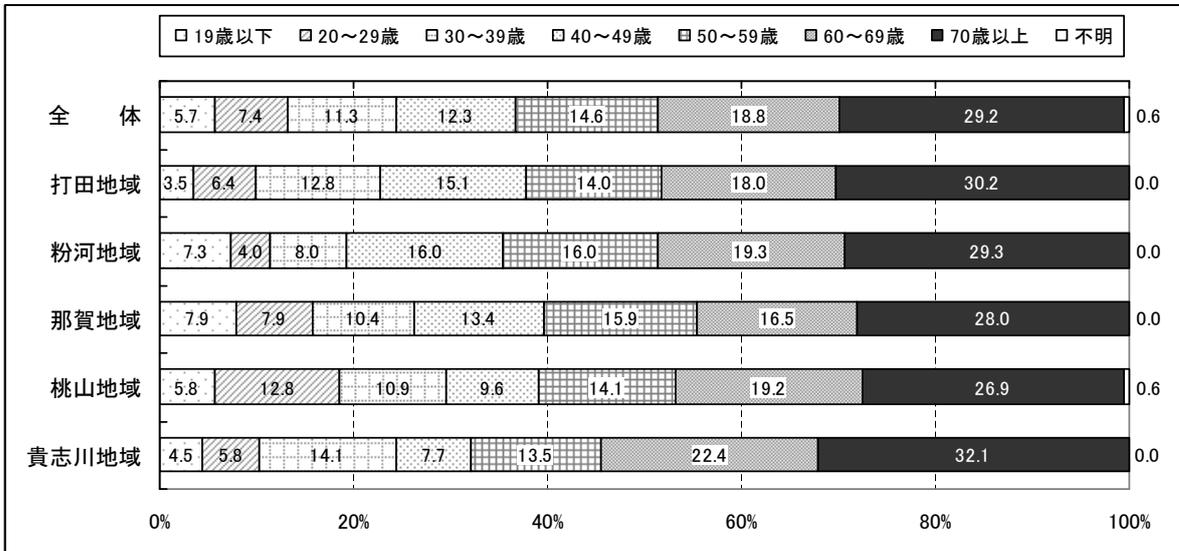


③居住地

- ・回答者は各地域とも同程度の割合となっている。
- ・回答者の地域別年齢層構成をみると、貴志川地域で他地域より60歳以上からの回答割合が高く50%を超える。一方、那賀地域、桃山地域は30歳代以下の若年層からの回答割合が他地域より高くなっている。

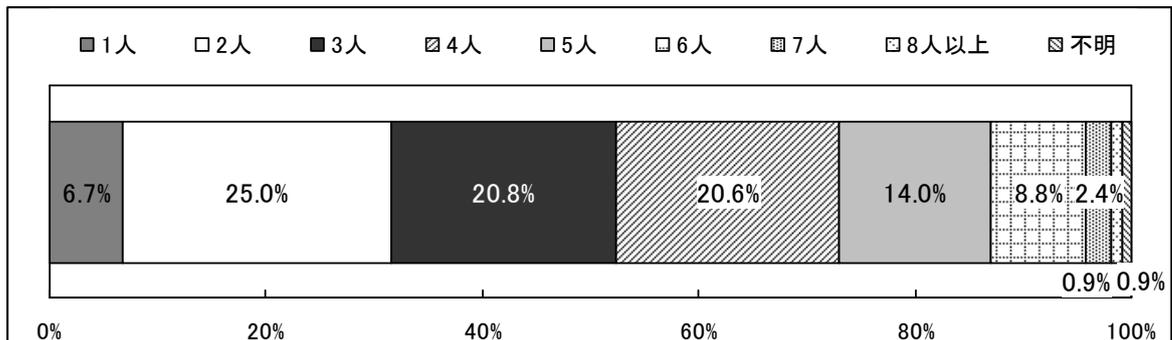


[地域別年齢層構成]



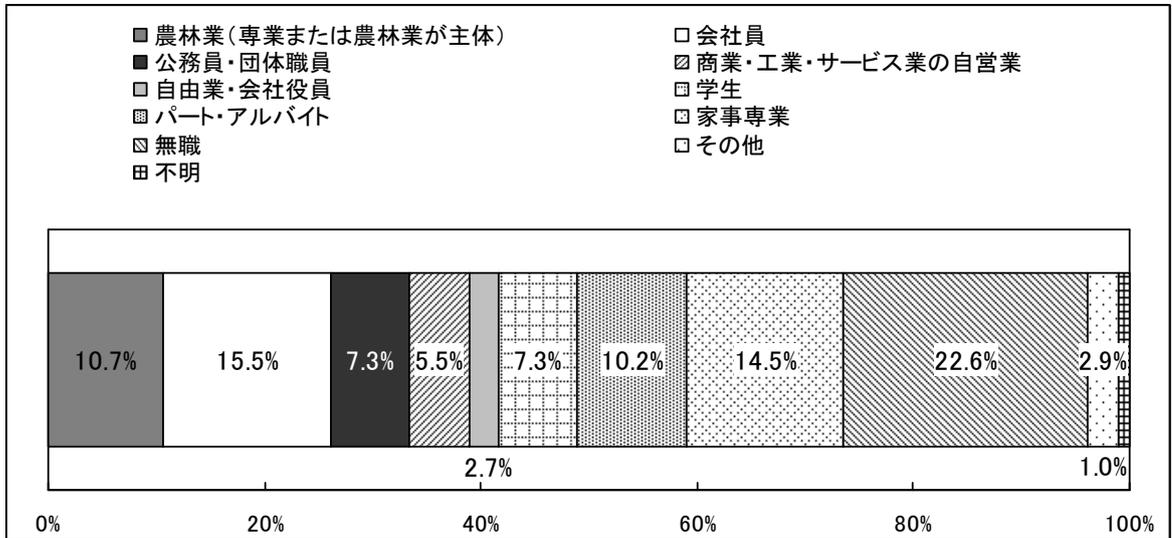
④家族人数

- ・2人世帯が最も多く、4分の1を占める。1人世帯6.7%とあわせて約3割が少数世帯となっている。核家族規模の3人世帯、4人世帯がそれぞれ2割程度となっており、5人以上世帯が3割弱を占める。

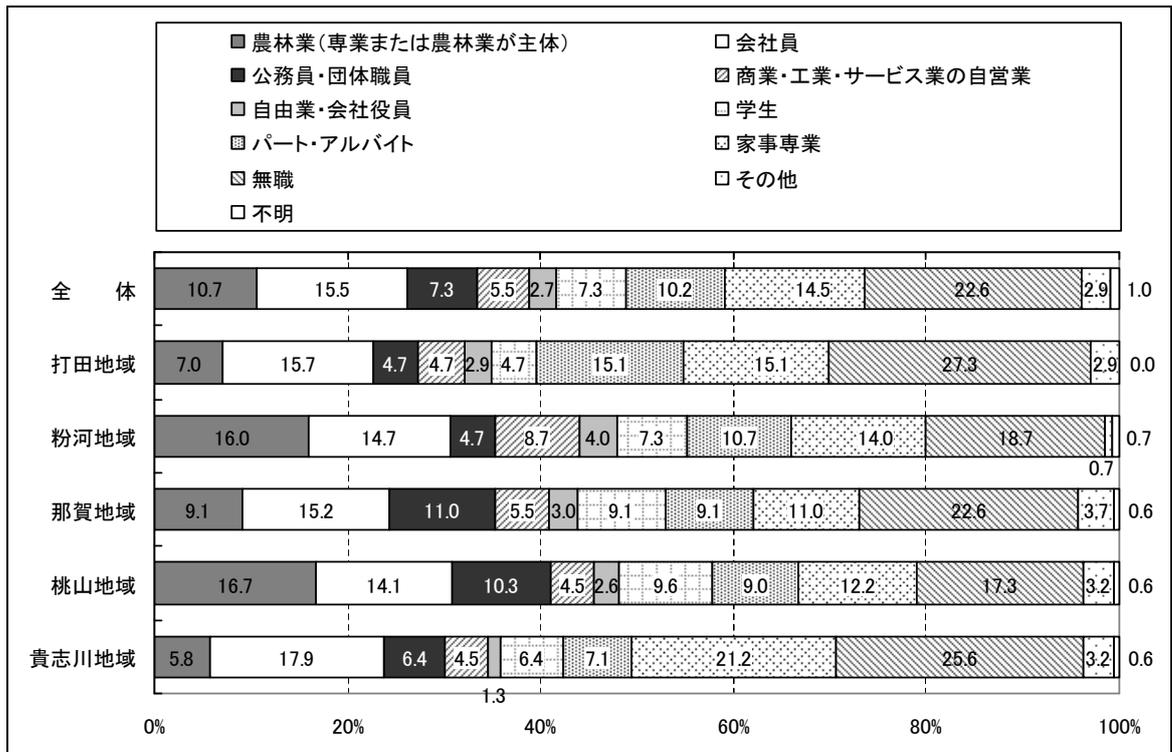


⑤職業

- ・回答者は無職が最も多く 22.6%、続いて会社員 15.5%、家事専業 14.5%、農林業 10.7%となっている。
- ・回答者の地域別職業構成をみると、粉河地域、桃山地域で他地域より「農林業」の割合が高く、貴志川地域で「会社員」の割合が高い。



[地域別職業構成]



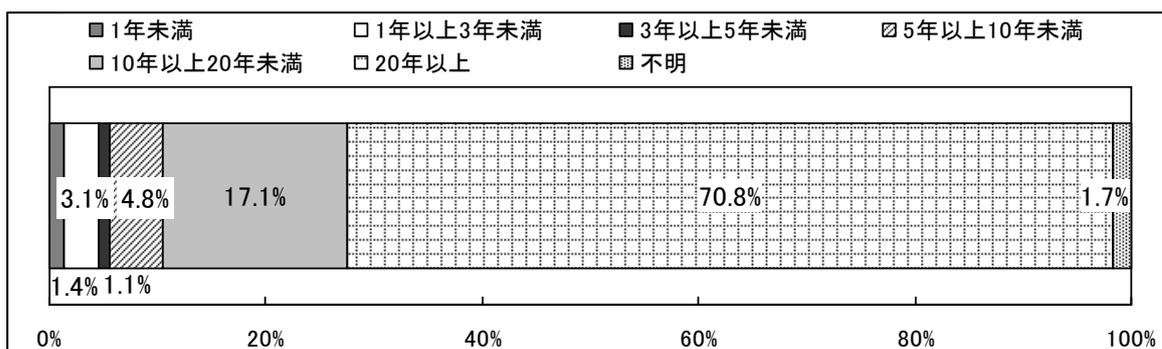
3. 回答結果

3-1. 紀の川市での生活について

①紀の川市での居住期間

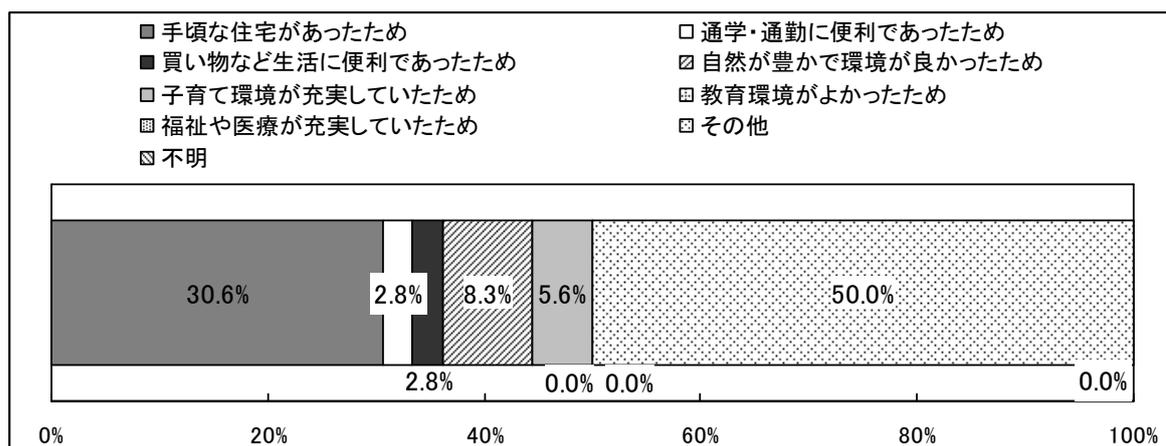
- ・約7割が居住期間20年以上となっている。居住期間3年未満の回答者は36人で5%に満たない。
- ・居住期間3年未満の回答者について、そのきっかけとして「手頃な住宅があったため」(11人/36人中)が最も高く、住宅取得が紀の川市への居住のきっかけとなっている。

問1. あなたが紀の川市（合併前の旧町も含め）に住みはじめての期間



問1—①. (問1で「1年未満」または「1年以上3年未満」を選択した方) あなたが紀の川市に住みはじめてのきっかけは何ですか。

N=36

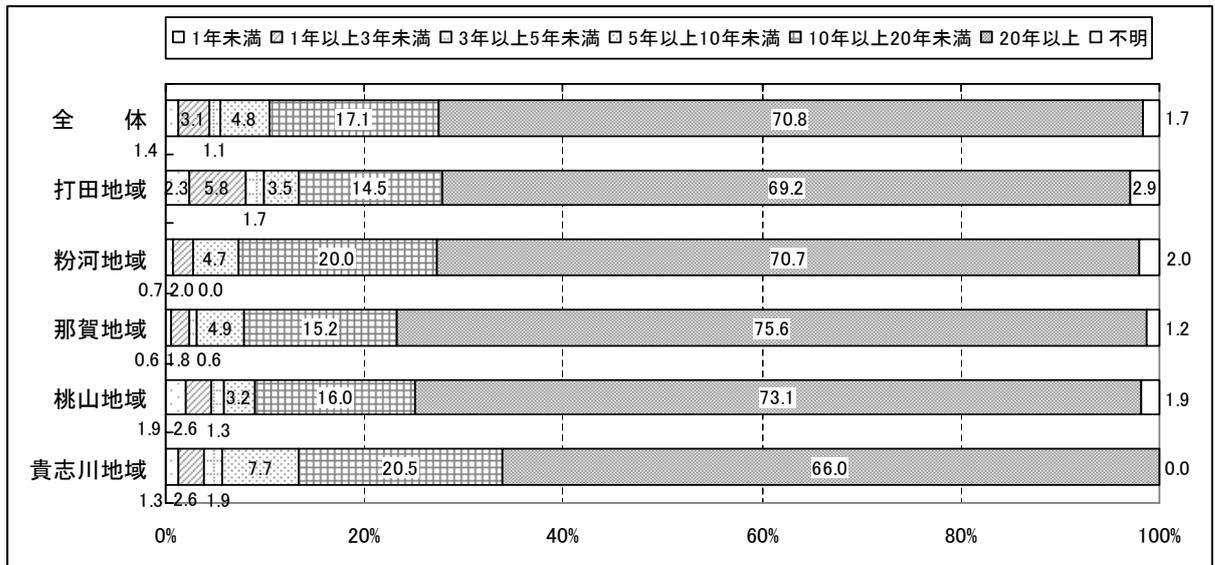


(その他)

結婚のため	5
身内等との同居・近居	3
実家がある（夫または妻）	2
出身	2
転勤	2
定年・退職	2

[地域別]

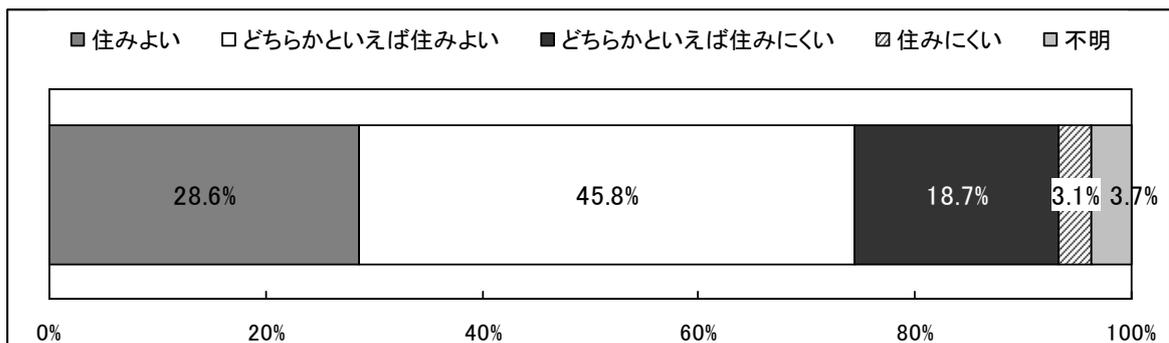
- ・地域別にみると、大きな差はみられないが、特に粉河地域、那賀地域、桃山地域で居住期間の長い割合が高くなっている。



②紀の川市の住みよさ

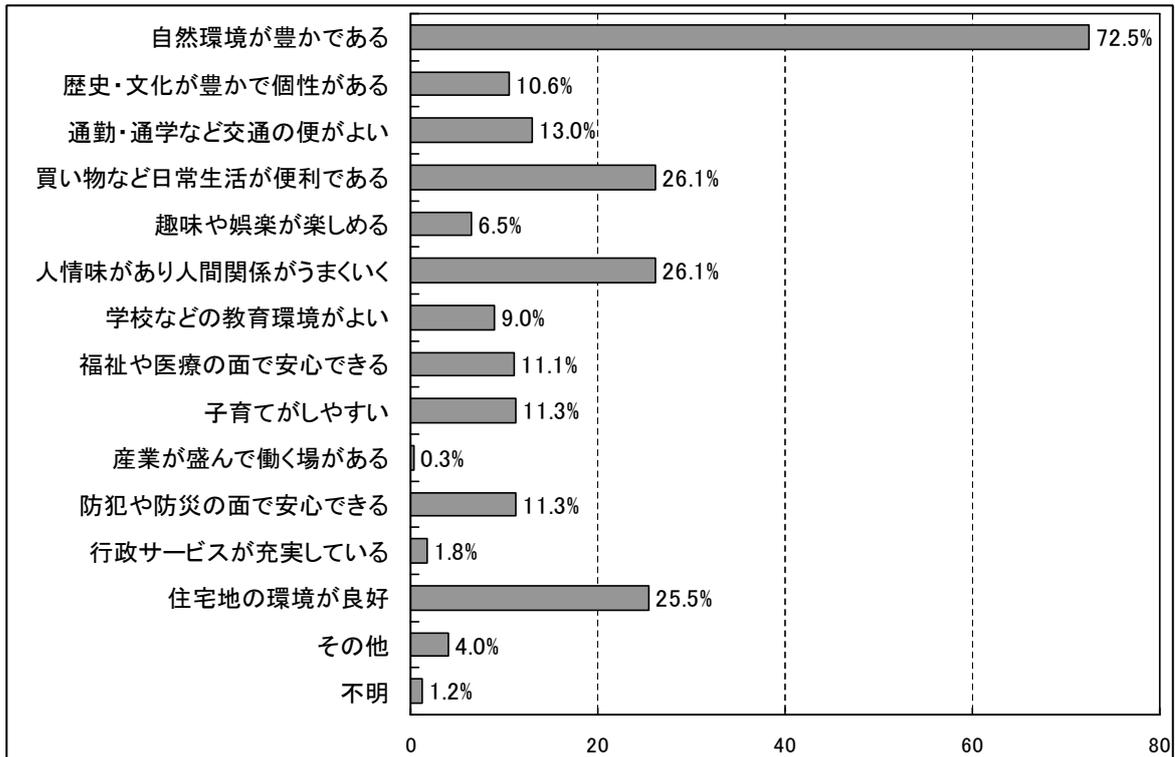
- ・「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」あわせて、8割近くが住みよいと評価している。一方、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」とする評価があわせて2割程度みられる。
- ・住みよいとの評価について、その理由として「自然環境が豊かである」が7割程度と群をぬいて高く、その他、「買い物など日常生活が便利である」、「人情味があり人間関係がうまくいく」、「住宅地の環境が良好」などが主な理由となっている。
- ・逆に住みにくいとの評価について、その理由として、「通勤・通学など交通の便が悪い」、「買物など日常生活が不便である」、「産業が停滞し働く場が少ない」などが上位となっている。

問2. あなたは紀の川市を住みよいと感じておられますか。



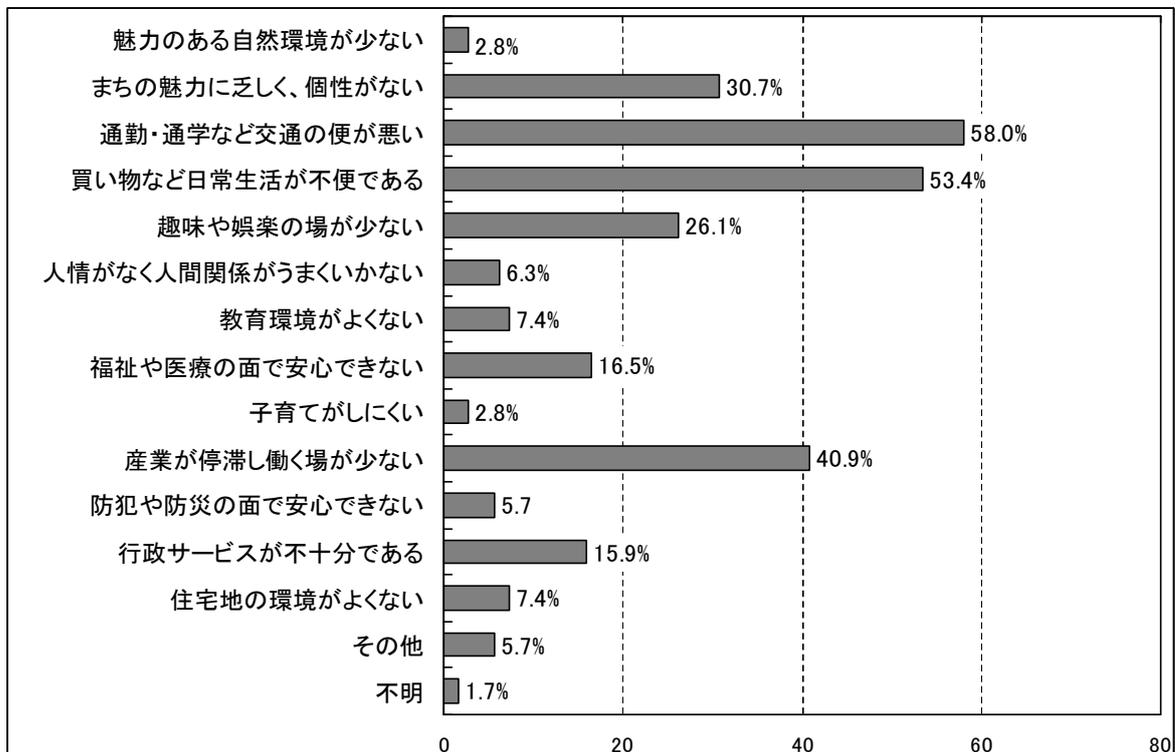
問2—①. (問2で「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」を選択した方) 住みよいと感じられる理由や魅力は何ですか。

N=601



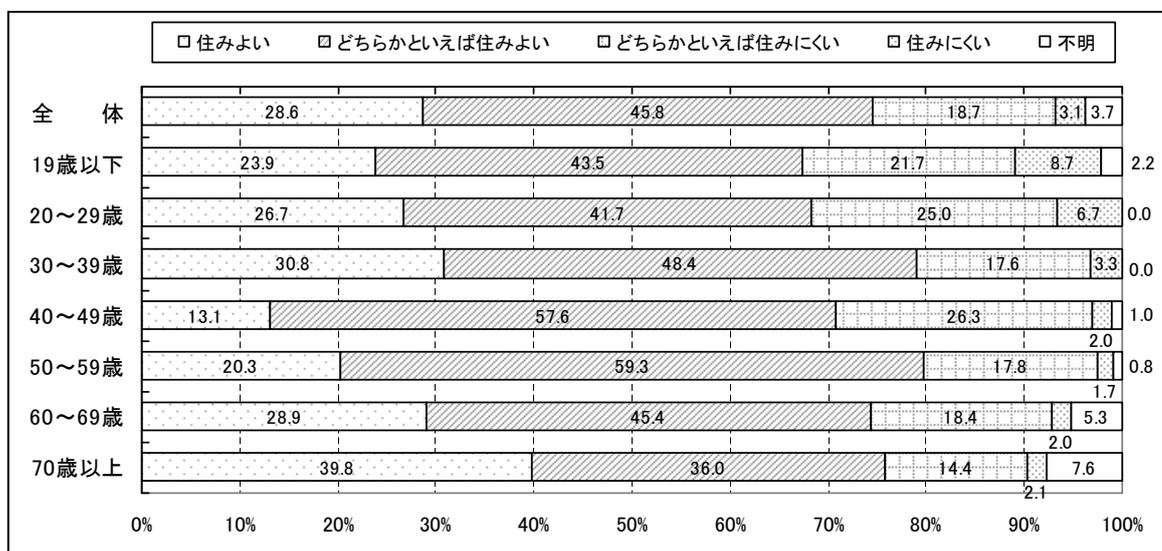
問2—②. (問2で「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」を選択した方) 住みにくいと感じられる理由は何ですか。

N=176



[年齢層別]

・年齢層別にみると、全体的には年齢層が高くなるほど住みよいと評価する割合が高くなって
いるものの、40歳代で「住みよい」とする割合が低く、「どちらかといえば住みにくい」と
評価する割合が高くなっている。40歳代では住みにくいとする理由として「産業が停滞し
働く場が少ない」との意向が約6割と高くなっており、「通勤・通学など交通の便が悪い」
などとあわせて働く環境への不満が住みにくいとの評価につながっているといえる。



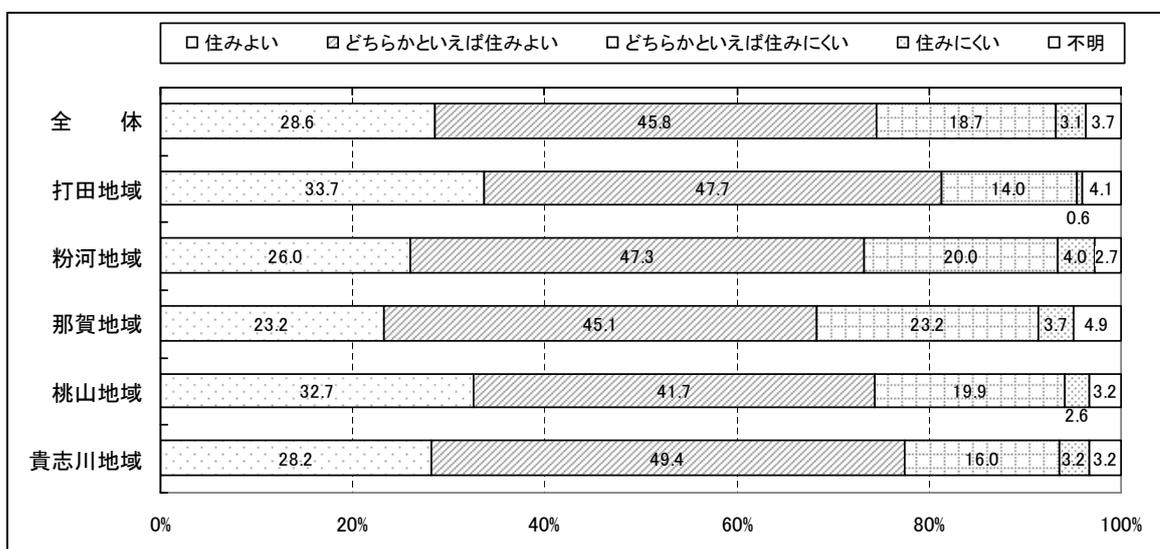
(住みにくいと感じる理由)

	全体 n=176	19歳以下 n=14	20～29歳 n=19	30～39歳 n=19	40～49歳 n=28	50～59歳 n=23	60～69歳 n=31	70歳以上 n=39
魅力のある自然環境が少ない	2.8	7.1	0.0	5.3	7.1	4.3	0.0	0.0
まちの魅力に乏しく、個性がない	30.7	21.4	31.6	36.8	21.4	34.8	32.3	30.8
通勤・通学など交通の便が悪い	58.0	50.0	73.7	63.2	78.6	52.2	51.6	46.2
買い物など日常生活が不便である	53.4	42.9	47.4	57.9	57.1	43.5	45.2	69.2
趣味や娯楽の場が少ない	26.1	64.3	42.1	36.8	21.4	26.1	16.1	12.8
人情がなく人間関係がうまくいかない	6.3	7.1	10.5	0.0	7.1	8.7	3.2	7.7
教育環境がよくない	7.4	7.1	5.3	10.5	14.3	4.3	9.7	2.6
福祉や医療の面で安心できない	16.5	0.0	15.8	0.0	7.1	21.7	22.6	25.6
子育てがしにくい	2.8	0.0	0.0	0.0	7.1	4.3	6.5	0.0
産業が停滞し働く場が少ない	40.9	28.6	26.3	42.1	57.1	30.4	51.6	38.5
防犯や防災の面で安心できない	5.7	7.1	5.3	5.3	3.6	0.0	9.7	7.7
行政サービスが不十分である	15.9	0.0	10.5	21.1	17.9	17.4	29.0	7.7
住宅地の環境がよくない	7.4	0.0	0.0	5.3	14.3	13.0	9.7	2.6
その他	5.7	0.0	5.3	5.3	7.1	8.7	6.5	5.1
不明	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	5.1

※網掛けは50%以上の項目

[地域別]

- ・地域別にみると、打田地域、貴志川地域では住みよとの評価（「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」との計）が 8 割前後と高くなっている。一方、那賀地域では住みよとの評価が 7 割に満たない。那賀地域においては、理由として「通勤・通学など交通の便が悪い」「買い物など日常生活が不便である」とともに、「産業が停滞し働く場が少ない」との意向が高くなっている。



(住みにくいと感ずる理由)

	全体 n=176	打田地域 n=25	粉河地域 n=36	那賀地域 n=44	桃山地域 n=35	貴志川地域 n=30
魅力のある自然環境が少ない	2.8	4.0	8.3	2.3	0.0	0.0
まちの魅力に乏しく、個性がない	30.7	40.0	41.7	34.1	22.9	10.0
通勤・通学など交通の便が悪い	58.0	60.0	58.3	54.5	60.0	63.3
買い物など日常生活が不便である	53.4	64.0	38.9	61.4	54.3	53.3
趣味や娯楽の場が少ない	26.1	24.0	38.9	22.7	31.4	16.7
人情がなく人間関係がうまくいかない	6.3	4.0	5.6	4.5	5.7	10.0
教育環境がよくない	7.4	4.0	13.9	9.1	5.7	3.3
福祉や医療の面で安心できない	16.5	16.0	5.6	18.2	20.0	20.0
子育てがしにくい	2.8	4.0	2.8	4.5	2.9	0.0
産業が停滞し働く場が少ない	40.9	44.0	38.9	54.5	22.9	43.3
防犯や防災の面で安心できない	5.7	4.0	5.6	4.5	5.7	3.3
行政サービスが不十分である	15.9	12.0	16.7	15.9	20.0	6.7
住宅地の環境がよくない	7.4	4.0	5.6	4.5	14.3	10.0
その他	5.7	8.0	2.8	2.3	5.7	13.3
不明	1.7	4.0	2.8	2.3	0.0	0.0

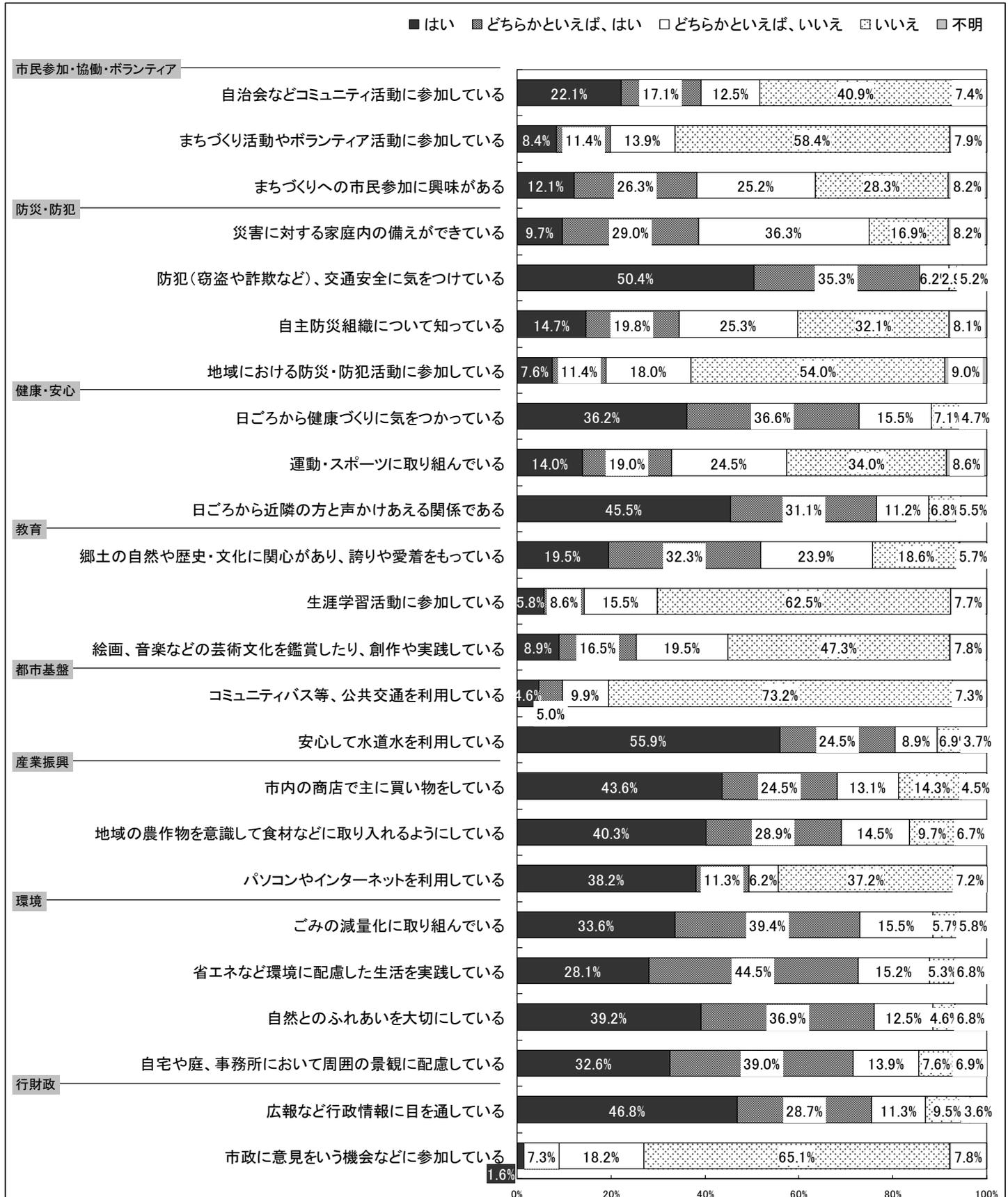
※網掛けは50%以上の項目

3-2. 日常生活や地域活動等について

①市民の参加や取り組み

- ・「産業振興」及び「環境」に関わる項目については市民の参加及び取り組み割合が高く、「はい」、「どちらかといえば、はい」をあわせて8割近くを占める項目が多い。一方、「市民参加・協働・ボランティア」、「防災」及び「教育」等に関する項目では、市民の参加及び取り組みの割合が低くなっている項目が多い。

問3. あなたの日常生活や地域活動等について、あなたの行動やお考えに最も近いものを各項目について選んでください。



[年齢層別]

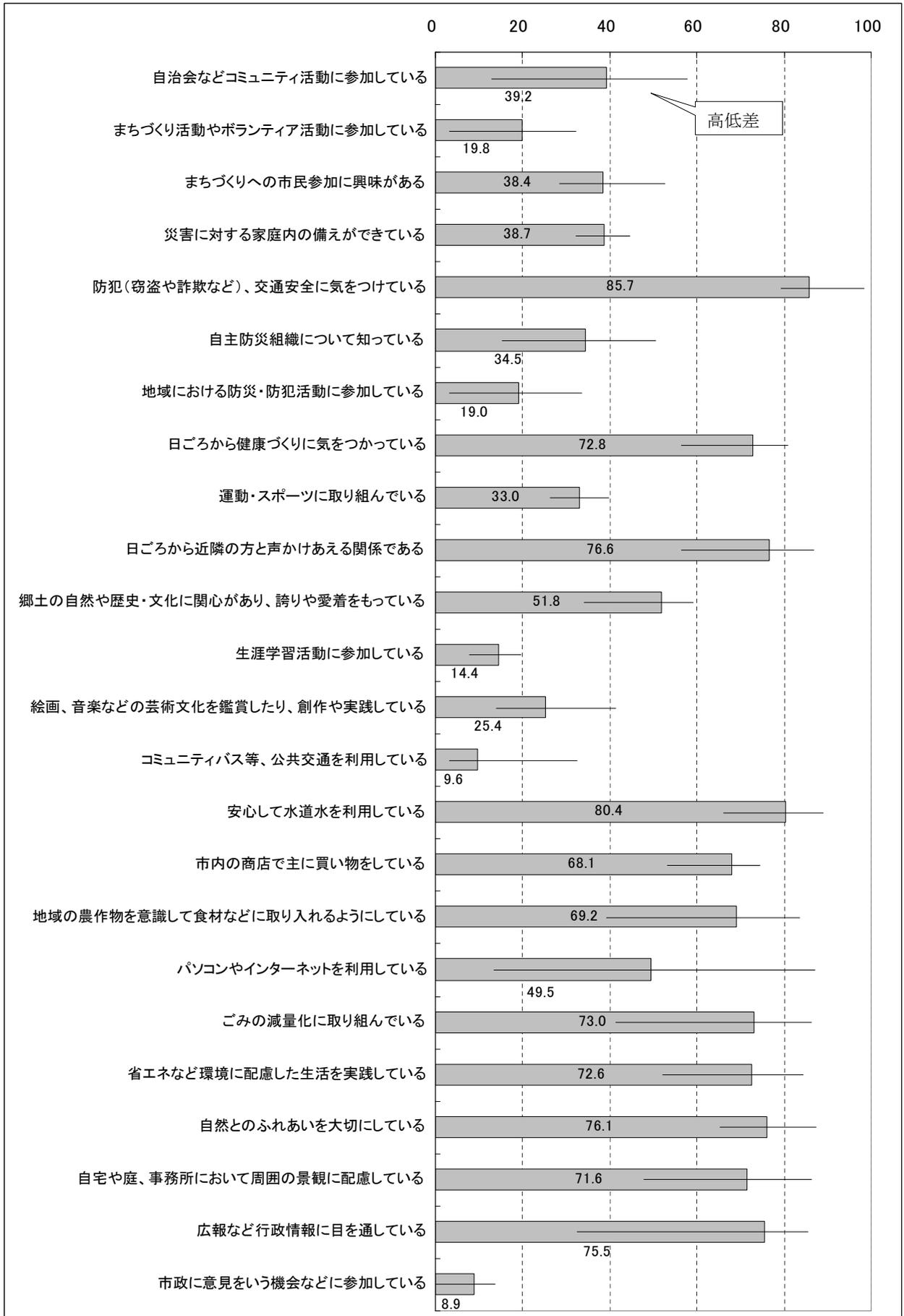
- ・“している”（「はい」「どちらかといえば、はい」の計）の割合をみると、高年齢層で全体より高い傾向にある。
- ・年齢層により“している”割合に差が見られる傾向にあるが、特に年齢層間で差が大きい項目は「自治会などコミュニティ活動に参加している」「地域の農作物を意識して食材などに取り入れるようにしている」「パソコンやインターネットを利用している」「ごみの減量化に取り組んでいる」「広報など行政情報に目を通している」などとなっている。

（“している”（「はい」「どちらかといえば、はい」の計）の割合）

		全体	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上							
市民参加・協働・ボランティア	自治会などコミュニティ活動に参加している	39.2%	13.0%	-26.2	13.4%	-25.8	25.3%	-13.9	40.4%	1.2	57.7%	18.5	55.3%	16.1	36.4%	-2.8
	まちづくり活動やボランティア活動に参加している	19.8%	15.2%	-4.6	6.6%	-13.2	3.3%	-16.5	17.2%	-2.6	23.8%	4.0	32.2%	12.4	21.6%	1.8
	まちづくりへの市民参加に興味がある	38.4%	32.6%	-5.8	33.3%	-5.1	28.6%	-9.8	31.3%	-7.1	48.3%	9.9	52.6%	14.2	33.9%	-4.5
防災・防犯	災害に対する家庭内の備えができています	38.7%	36.9%	-1.8	40.0%	1.3	34.1%	-4.6	32.4%	-6.3	32.2%	-6.5	44.7%	6.0	43.2%	4.5
	防犯(窃盗や詐欺など)、交通安全に気を付けています	85.7%	80.4%	-5.3	98.3%	12.6	86.9%	1.2	82.8%	-2.9	89.8%	4.1	92.1%	6.4	79.3%	-6.4
	自主防災組織について知っている	34.5%	19.6%	-14.9	35.0%	0.5	15.4%	-19.1	24.3%	-10.2	31.4%	-3.1	50.6%	16.1	41.1%	6.6
	地域における防災・防犯活動に参加している	19.0%	8.7%	-10.3	3.3%	-15.7	7.7%	-11.3	19.2%	0.2	24.6%	5.6	33.5%	14.5	17.4%	-1.6
健康・安心	日ごろから健康づくりに気をつけています	72.8%	56.5%	-16.3	68.4%	-4.4	69.2%	-3.6	61.6%	-11.2	77.9%	5.1	80.9%	8.1	75.5%	2.7
	運動・スポーツに取り組んでいる	33.0%	37.0%	4.0	31.7%	-1.3	31.9%	-1.1	37.3%	4.3	39.8%	6.8	36.2%	3.2	26.3%	-6.7
	日ごろから近隣の方と声かけあえる関係である	76.6%	56.5%	-20.1	65.0%	-11.6	74.8%	-1.8	76.8%	0.2	83.9%	7.3	86.8%	10.2	74.6%	-2.0
教育	郷土の自然や歴史・文化に関心があり、誇りや愛着をもっている	51.8%	52.2%	0.4	51.6%	-0.2	34.1%	-17.7	39.4%	-12.4	55.0%	3.2	59.2%	7.4	58.1%	6.3
	生涯学習活動に参加している	14.4%	8.7%	-5.7	10.0%	-4.4	7.7%	-6.7	11.1%	-3.3	16.9%	2.5	13.8%	-0.6	19.5%	5.1
	絵画、音楽などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践している	25.4%	41.3%	15.9	25.0%	-0.4	24.2%	-1.2	14.1%	-11.3	33.9%	8.5	27.6%	2.2	22.1%	-3.3
都市基盤	コミュニティバス等、公共交通を利用している	9.6%	32.6%	23.0	8.3%	-1.3	7.7%	-1.9	6.0%	-3.6	3.3%	-6.3	5.9%	-3.7	13.1%	3.5
	安心して水道水を利用している	80.4%	89.1%	8.7	76.6%	-3.8	66.0%	-14.4	73.8%	-6.6	82.2%	1.8	84.8%	4.4	85.6%	5.2
産業振興	市内の商店で主に買い物をしている	68.1%	67.4%	-0.7	53.3%	-14.8	62.7%	-5.4	56.6%	-11.5	70.4%	2.3	73.6%	5.5	74.5%	6.4
	地域の農作物を意識して食材などに取り入れるようにしている	69.2%	39.2%	-30.0	68.3%	-0.9	64.9%	-4.3	60.6%	-8.6	78.0%	8.8	83.6%	14.4	67.3%	-1.9
	パソコンやインターネットを利用している	49.5%	87.0%	37.5	85.0%	35.5	72.5%	23.0	73.7%	24.2	66.1%	16.6	38.1%	-11.4	13.5%	-36.0
環境	ごみの減量化に取り組んでいる	73.0%	41.3%	-31.7	65.0%	-8.0	59.4%	-13.6	68.7%	-4.3	85.5%	12.5	86.2%	13.2	74.6%	1.6
	省エネなど環境に配慮した生活を実践している	72.6%	52.2%	-20.4	63.3%	-9.3	66.0%	-6.6	75.8%	3.2	80.5%	7.9	84.3%	11.7	69.5%	-3.1
	自然とのふれあいを大切にしている	76.1%	65.3%	-10.8	73.3%	-2.8	69.3%	-6.8	70.7%	-5.4	86.4%	10.3	87.5%	11.4	72.0%	-4.1
	自宅や庭、事務所において周囲の景観に配慮している	71.6%	47.8%	-23.8	63.4%	-8.2	67.1%	-4.5	63.6%	-8.0	84.8%	13.2	86.2%	14.6	68.6%	-3.0
行財政	広報など行政情報に目を通している	75.5%	32.6%	-42.9	58.3%	-17.2	71.5%	-4.0	84.8%	9.3	84.7%	9.2	85.5%	10.0	75.9%	0.4
	市政に意見をいう機会などに参加している	8.9%	2.2%	-6.7	0.0%	-8.9	4.4%	-4.5	7.1%	-1.8	11.0%	2.1	13.8%	4.9	11.0%	2.1

※各地域の右欄の数値は全体との差。負の値が大きいほど「している」「はい」及び「どちらかといえばはい」割合が全体より低いことになる。網掛けは5ポイント以上差のある項目。

(“している”(「はい」「どちらかといえば、はい」の計)の割合の年齢層による差)



[地域別]

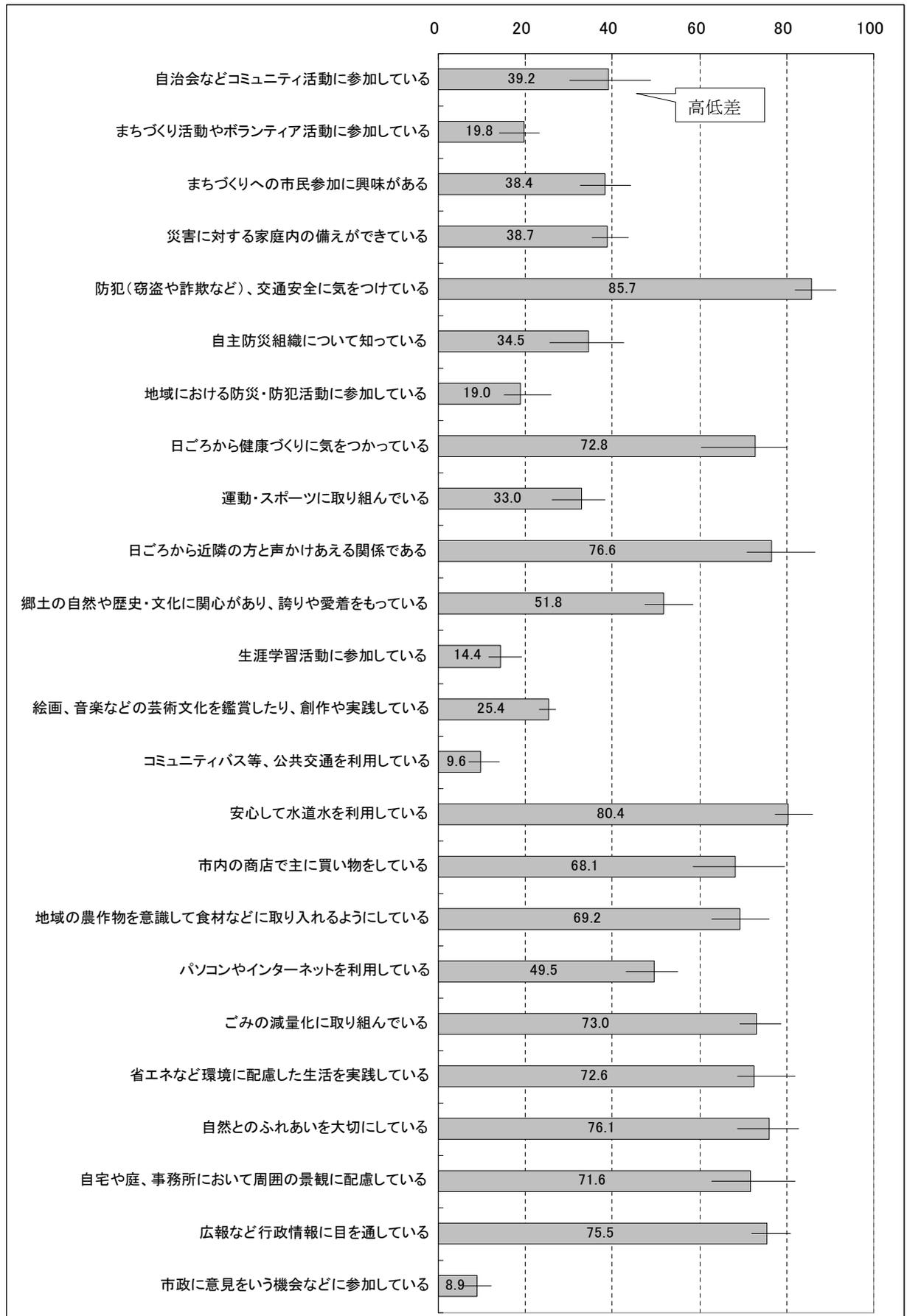
- ・“している”（「はい」「どちらかといえば、はい」の計）の割合をみると、打田地域で全体より低い傾向にあり、なかでも「自治会などコミュニティ活動に参加している」「自主防災組織について知っている」「日ごろから健康づくりに気をつけている」などが全体より低くなっている。また、那賀地域で「市内の商店で主に買い物をしている」の割合が全体より低くなっている。
- ・地域間の差がみられる項目は、「自治会などコミュニティ活動に参加している」「自主防災組織について知っている」「日ごろから健康づくりに気をつけている」「市内の商店で主に買い物をしている」「自宅や庭、事務所において周囲の景観に配慮している」などである。

（“している”（「はい」「どちらかといえば、はい」の計）の割合）

		全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川					
市民参加・協働・ボランティア	自治会などコミュニティ活動に参加している	39.2%	30.2%	-9.0	48.7%	9.5	40.2%	1.0	34.6%	-4.6	44.3%	5.1
	まちづくり活動やボランティア活動に参加している	19.8%	14.0%	-5.8	20.7%	0.9	21.3%	1.5	23.1%	3.3	21.1%	1.3
	まちづくりへの市民参加に興味がある	38.4%	32.6%	-5.8	38.6%	0.2	38.5%	0.1	39.1%	0.7	44.3%	5.9
防災・防犯	災害に対する家庭内の備えができています	38.7%	36.6%	-2.1	43.4%	4.7	35.4%	-3.3	37.2%	-1.5	43.6%	4.9
	防犯(窃盗や詐欺など)、交通安全に気をつけている	85.7%	81.9%	-3.8	88.7%	3.0	91.4%	5.7	82.7%	-3.0	85.9%	0.2
	自主防災組織について知っている	34.5%	25.6%	-8.9	42.6%	8.1	38.4%	3.9	32.7%	-1.8	36.6%	2.1
	地域における防災・防犯活動に参加している	19.0%	15.1%	-3.9	26.0%	7.0	16.4%	-2.6	16.6%	-2.4	21.8%	2.8
健康・安心	日ごろから健康づくりに気をつけている	72.8%	60.5%	-12.3	80.0%	7.2	71.3%	-1.5	74.4%	1.6	79.5%	6.7
	運動・スポーツに取り組んでいる	33.0%	26.1%	-6.9	33.3%	0.3	37.8%	4.8	30.8%	-2.2	38.4%	5.4
	日ごろから近隣の方と声かけあえる関係である	76.6%	70.9%	-5.7	82.6%	6.0	86.6%	10.0	72.5%	-4.1	73.1%	-3.5
教育	郷土の自然や歴史・文化に関心があり、誇りや愛着をもっている	51.8%	48.3%	-3.5	56.7%	4.9	58.6%	6.8	49.3%	-2.5	47.5%	-4.3
	生涯学習活動に参加している	14.4%	14.6%	0.2	13.4%	-1.0	13.5%	-0.9	11.5%	-2.9	19.2%	4.8
	絵画、音楽などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践している	25.4%	23.3%	-2.1	26.0%	0.6	26.2%	0.8	25.7%	0.3	27.0%	1.6
都市基盤	コミュニティバス等、公共交通を利用している	9.6%	7.0%	-2.6	8.7%	-0.9	8.6%	-1.0	10.3%	0.7	14.1%	4.5
	安心して水道水を利用している	80.4%	77.4%	-3.0	79.3%	-1.1	85.9%	5.5	79.5%	-0.9	82.7%	2.3
産業振興	市内の商店で主に買い物をしている	68.1%	65.7%	-2.4	70.6%	2.5	58.6%	-9.5	68.6%	0.5	79.5%	11.4
	地域の農作物を意識して食材などに取り入れるようにしている	69.2%	62.8%	-6.4	76.0%	6.8	71.4%	2.2	62.8%	-6.4	75.6%	6.4
	パソコンやインターネットを利用している	49.5%	43.1%	-6.4	51.3%	1.8	50.0%	0.5	55.1%	5.6	50.0%	0.5
環境	ごみの減量化に取り組んでいる	73.0%	72.7%	-0.3	78.7%	5.7	71.9%	-1.1	69.2%	-3.8	74.4%	1.4
	省エネなど環境に配慮した生活を実践している	72.6%	68.6%	-4.0	82.0%	9.4	68.9%	-3.7	68.6%	-4.0	77.6%	5.0
	自然とのふれあいを大切にしている	76.1%	68.6%	-7.5	82.7%	6.6	76.9%	0.8	74.4%	-1.7	80.8%	4.7
	自宅や庭、事務所において周囲の景観に配慮している	71.6%	62.8%	-8.8	82.0%	10.4	73.1%	1.5	71.2%	-0.4	72.5%	0.9
行財政	広報など行政情報に目を通している	75.5%	76.7%	1.2	76.7%	1.2	71.9%	-3.6	74.3%	-1.2	80.8%	5.3
	市政に意見をいう機会などに参加している	8.9%	5.9%	-3.0	12.0%	3.1	12.2%	3.3	7.7%	-1.2	7.7%	-1.2

※各地域の右欄の数値は全体との差。負の値が大きいほど「している」（「はい」及び「どちらかといえばはい」）割合が全体より低いことになる。網掛けは5ポイント以上差のある項目。

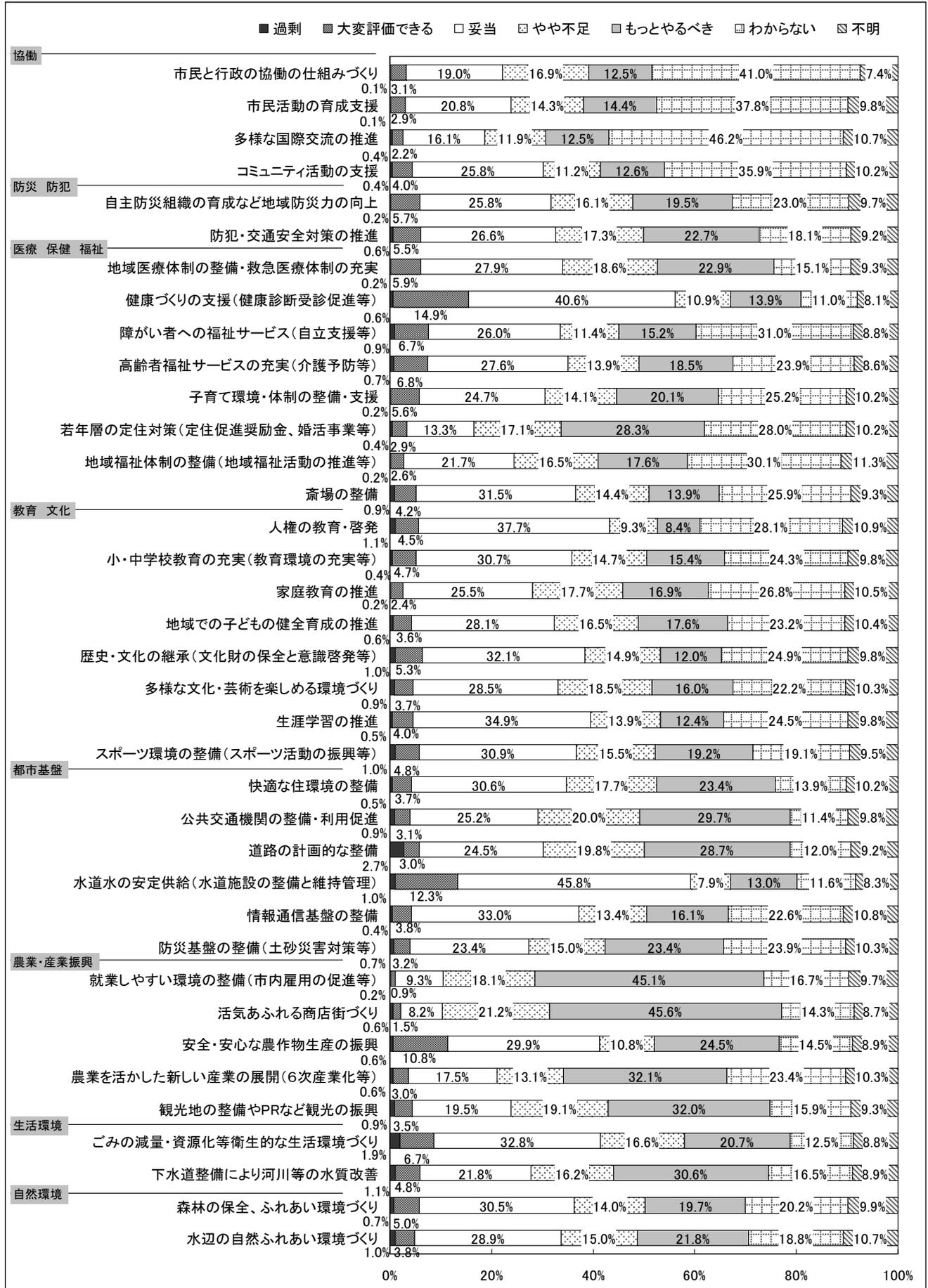
（“している”（「はい」「どちらかといえば、はい」の計）の割合の地域による差）



②総合計画に基づく重点施策の取り組みについての評価

- ・もっとやるべきと評価されている割合が高い取り組みは、順に「活気あふれる商店街づくり」(45.6%)、「就業しやすい環境の整備 [市内雇用の促進等]」(45.1%)、「農業を活かした新しい産業の展開 [6次産業化等]」(32.1%)、「観光地の整備やPRなど観光の振興」(32.0%)となっており、農業・産業振興に関する項目が上位を占める。
- ・一方、2%程度ではあるものの、過剰との評価が他の項目より高いのは「道路の計画的な整備」、「ごみの減量・資源化等衛生的な生活環境づくり」となっている。

問4. 総合計画に基づく重点施策の取り組みについて、あなたはどのように評価しますか。各項目について選んでください。



[年齢層別]

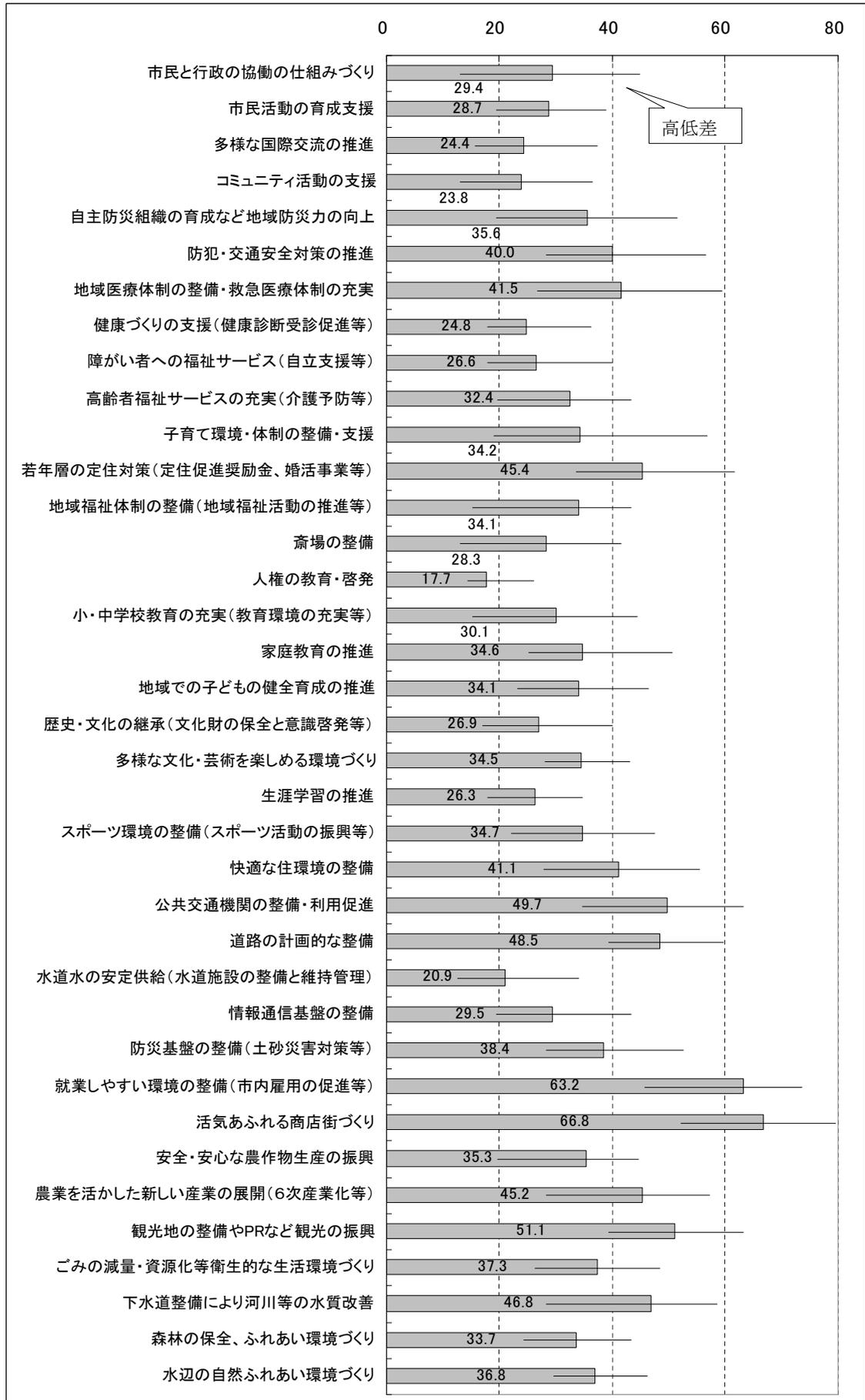
・年齢層別にみると、20歳代から50歳代で全体より“やるべき”とする割合が高い項目が多くなっている。20歳代では特に「医療 保健 福祉」に関する項目で、40歳代では「協働」「防災 防犯」「都市基盤」、50歳代では「協働」「防災 防犯」「医療 保健 福祉」「農業・産業振興」に関する項目で割合が高くなっている。

(“やるべき”(「やや不足」「もっとやるべき」の計)の割合)

	全体	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上								
協働	市民と行政の協働の仕組みづくり	29.4%	13.0%	-16.4	31.6%	2.2	28.6%	-0.8	35.4%	6.0	44.9%	15.5	31.5%	2.1	20.8%	-8.6
	市民活動の育成支援	28.7%	19.5%	-9.2	31.7%	3.0	24.2%	-4.5	38.4%	9.7	38.9%	10.2	29.0%	0.3	22.0%	-6.7
	多様な国際交流の推進	24.4%	19.5%	-4.9	36.7%	12.3	25.3%	0.9	37.4%	13.0	27.1%	2.7	23.7%	-0.7	15.7%	-8.7
	コミュニティ活動の支援	23.8%	13.1%	-10.7	18.3%	-5.5	17.6%	-6.2	35.4%	11.6	36.4%	12.6	25.0%	1.2	17.8%	-6
防災 防犯	自主防災組織の育成など地域防災力の向上	35.6%	19.5%	-16.1	35.0%	-0.6	34.1%	-1.5	51.6%	16.0	41.6%	6.0	34.2%	-1.4	31.3%	-4.3
	防犯・交通安全対策の推進	40.0%	28.2%	-11.8	40.0%	0.0	44.0%	4.0	56.5%	16.5	47.4%	7.4	38.8%	-1.2	31.8%	-8.2
医療 保健 福祉	地域医療体制の整備・救急医療体制の充実	41.5%	32.6%	-8.9	58.3%	16.8	59.4%	17.9	55.6%	14.1	50.0%	8.5	34.2%	-7.3	26.7%	-14.8
	健康づくりの支援(健康診断受診促進等)	24.8%	21.7%	-3.1	35.0%	10.2	36.3%	11.5	30.3%	5.5	25.4%	0.6	21.7%	-3.1	17.8%	-7
	障がい者への福祉サービス(自立支援等)	26.6%	26.1%	-0.5	40.0%	13.4	29.7%	3.1	27.3%	0.7	33.1%	6.5	28.2%	1.6	17.8%	-8.8
	高齢者福祉サービスの充実(介護予防等)	32.4%	19.6%	-12.8	43.4%	11.0	33.0%	0.6	33.3%	0.9	37.3%	4.9	34.9%	2.5	27.6%	-4.8
	子育て環境・体制の整備・支援	34.2%	28.2%	-6.0	56.7%	22.5	41.8%	7.6	40.4%	6.2	42.4%	8.2	36.9%	2.7	19.1%	-15.1
	若年層の定住対策(定住促進奨励金、婚活事業等)	45.4%	34.8%	-10.6	61.7%	16.3	45.1%	-0.3	49.5%	4.1	54.2%	8.8	51.3%	5.9	33.5%	-11.9
	地域福祉体制の整備(地域福祉活動の推進等)	34.1%	15.2%	-18.9	43.3%	9.2	33.0%	-1.1	37.4%	3.3	40.7%	6.6	38.2%	4.1	28.8%	-5.3
	斎場の整備	28.3%	13.0%	-15.3	26.6%	-1.7	18.7%	-9.6	35.3%	7.0	41.5%	13.2	32.9%	4.6	22.9%	-5.4
教育 文化	人権の教育・啓発	17.7%	26.0%	8.3	21.7%	4.0	14.3%	-3.4	20.2%	2.5	17.8%	0.1	19.8%	2.1	14.4%	-3.3
	小・中学校教育の充実(教育環境の充実等)	30.1%	32.6%	2.5	40.0%	9.9	37.4%	7.3	44.4%	14.3	39.0%	8.9	28.3%	-1.8	15.3%	-14.8
	家庭教育の推進	34.6%	32.6%	-2.0	38.3%	3.7	25.3%	-9.3	50.5%	15.9	37.2%	2.6	36.8%	2.2	28.8%	-5.8
	地域での子どもの健全育成の推進	34.1%	30.5%	-3.6	43.3%	9.2	34.1%	0.0	46.5%	12.4	39.8%	5.7	36.1%	2.0	23.3%	-10.8
	歴史・文化の継承(文化財の保全と意識啓発等)	26.9%	32.6%	5.7	40.0%	13.1	25.3%	-1.6	30.3%	3.4	28.0%	1.1	32.9%	6.0	17.0%	-9.9
	多様な文化・芸術を楽しめる環境づくり	34.5%	34.8%	0.3	40.0%	5.5	31.9%	-2.6	39.4%	4.9	43.2%	8.7	33.5%	-1.0	28.0%	-6.5
	生涯学習の推進	26.3%	26.1%	-0.2	21.6%	-4.7	24.2%	-2.1	34.3%	8.0	34.8%	8.5	31.0%	4.7	17.8%	-8.5
	スポーツ環境の整備(スポーツ活動の振興等)	34.7%	32.6%	-2.1	41.7%	7.0	45.1%	10.4	47.5%	12.8	37.2%	2.5	35.6%	0.9	22.1%	-12.6
都市 基盤	快適な住環境の整備	41.1%	34.8%	-6.3	46.6%	5.5	47.3%	6.2	55.5%	14.4	46.6%	5.5	44.1%	3.0	27.9%	-13.2
	公共交通機関の整備・利用促進	49.7%	52.2%	2.5	63.3%	13.6	52.8%	3.1	61.6%	11.9	60.2%	10.5	50.0%	0.3	34.7%	-15
	道路の計画的な整備	48.5%	45.7%	-2.8	51.6%	3.1	48.4%	-0.1	59.6%	11.1	50.0%	1.5	55.3%	6.8	39.4%	-9.1
	水道水の安定供給(水道施設の整備と維持管理)	20.9%	13.0%	-7.9	21.6%	0.7	34.1%	13.2	27.3%	6.4	27.2%	6.3	19.1%	-1.8	12.7%	-8.2
	情報通信基盤の整備	29.5%	19.5%	-10.0	28.3%	-1.2	35.2%	5.7	43.4%	13.9	37.3%	7.8	28.3%	-1.2	21.2%	-8.3
	防災基盤の整備(土砂災害対策等)	38.4%	28.3%	-10.1	50.0%	11.6	44.0%	5.6	52.5%	14.1	39.9%	1.5	39.5%	1.1	28.4%	-10
農業・ 産業 振興	就業しやすい環境の整備(市内雇用の促進等)	63.2%	45.7%	-17.5	71.7%	8.5	64.8%	1.6	73.7%	10.5	72.9%	9.7	68.5%	5.3	51.7%	-11.5
	活気あふれる商店街づくり	66.8%	58.7%	-8.1	73.3%	6.5	72.6%	5.8	75.8%	9.0	79.6%	12.8	71.1%	4.3	52.1%	-14.7
	安全・安心な農作物生産の振興	35.3%	19.6%	-15.7	31.7%	-3.6	29.7%	-5.6	33.4%	-1.9	43.2%	7.9	44.7%	9.4	32.6%	-2.7
	農業を活かした新しい産業の展開(6次産業化等)	45.2%	28.3%	-16.9	48.3%	3.1	39.6%	-5.6	46.5%	1.3	54.2%	9.0	57.2%	12.0	38.1%	-7.1
	観光地の整備やPRなど観光の振興	51.1%	43.5%	-7.6	63.3%	12.2	50.6%	-0.5	57.6%	6.5	58.5%	7.4	57.9%	6.8	39.4%	-11.7
生活 環境	ごみの減量・資源化等衛生的な生活環境づくり	37.3%	39.1%	1.8	38.3%	1.0	26.4%	-10.9	48.4%	11.1	42.4%	5.1	42.7%	5.4	30.5%	-6.8
	下水道整備により河川等の水質改善	46.8%	28.2%	-18.6	38.4%	-8.4	42.9%	-3.9	58.6%	11.8	58.5%	11.7	55.9%	9.1	38.2%	-8.6
自然 環境	森林の保全、ふれあい環境づくり	33.7%	30.4%	-3.3	30.0%	-3.7	24.2%	-9.5	37.4%	3.7	37.3%	3.6	43.4%	9.7	29.6%	-4.1
	水辺の自然ふれあい環境づくり	36.8%	32.6%	-4.2	36.7%	-0.1	29.7%	-7.1	39.4%	2.6	42.3%	5.5	46.1%	9.3	31.0%	-5.8

※各地域の右欄の数値は全体との差。数値が大きいほど「やや不足」「もっとやるべき」に該当する割合が全体より高いことになる。網掛けは5ポイント以上差のある項目。

（“やるべき”（「やや不足」「もっとやるべき」の計）の割合の年齢層による差）



[地域別]

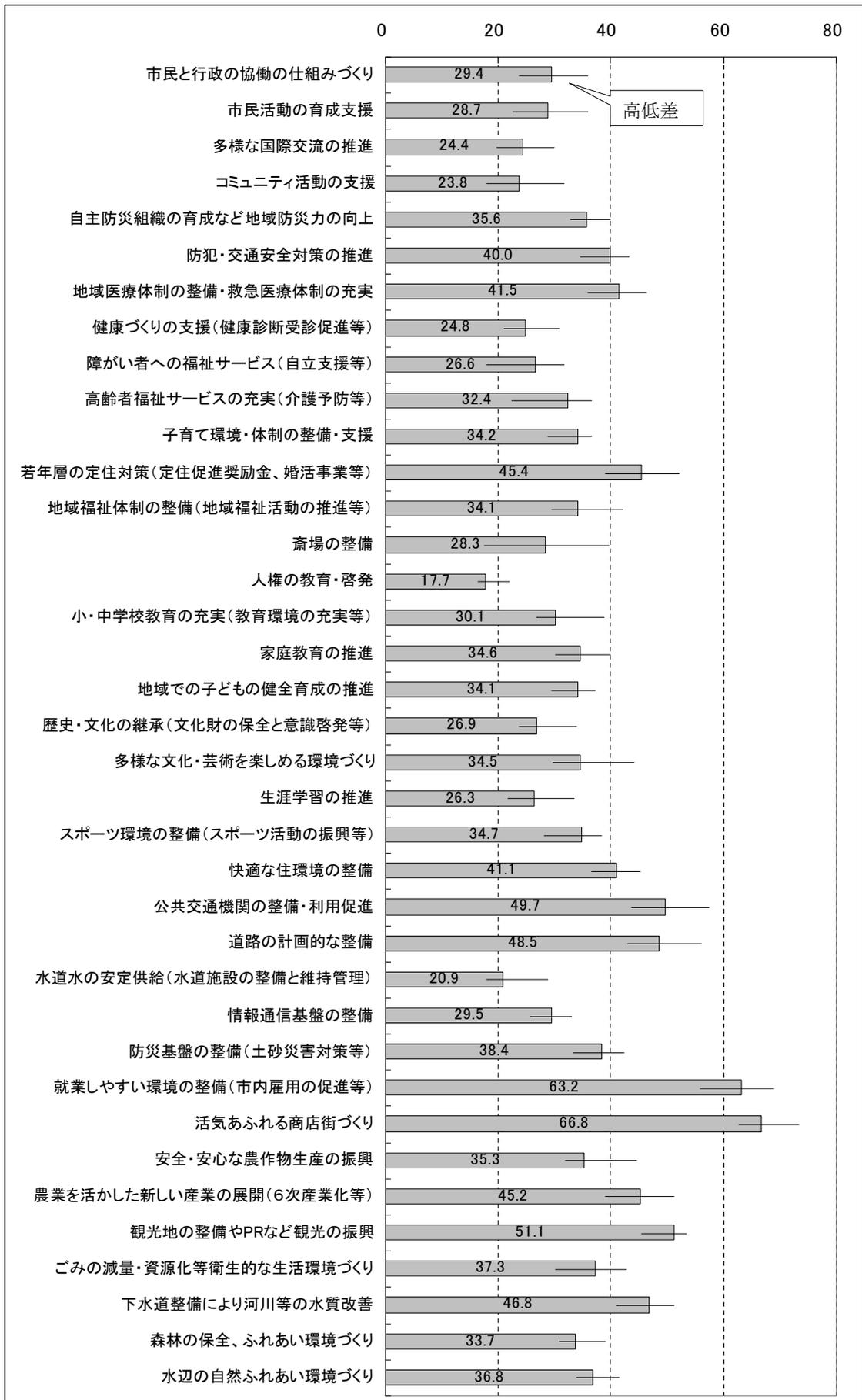
・地域間の差を比較すると、全体との差がみられ、“やるべき”（「やや不足」と「もっとやるべき」との計）とする割合が高い項目は粉河地域、那賀地域で多くなっている。粉河地域では特に「小・中学校教育の充実（教育環境の充実等）」「歴史・文化の継承（文化財の保全と意識啓発等）」「道路の計画的な整備」「水道水の安定供給（水道施設の整備と維持管理）」などの差が大きくなっている。那賀地域では「地域福祉体制の整備（地域福祉活動の推進等）」「多様な文化・芸術を楽しめる環境づくり」「安全・安心な農作物生産の推進」などの差が大きくなっている。また「斎場の整備」については地域間の差が大きく、打田地域、粉河地域では“やるべき”との意向が高い一方、那賀地域、貴志川地域では低い。

（“やるべき”（「やや不足」「もっとやるべき」の計）の割合）

		全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川					
協働	市民と行政の協働の仕組みづくり	29.4%	23.8%	-5.6	33.3%	3.9	36.0%	6.6	26.3%	-3.1	27.0%	-2.4
	市民活動の育成支援	28.7%	25.0%	-3.7	34.0%	5.3	36.0%	7.3	25.6%	-3.1	22.5%	-6.2
	多様な国際交流の推進	24.4%	22.7%	-1.7	22.6%	-1.8	29.9%	5.5	19.8%	-4.6	26.9%	2.5
	コミュニティ活動の支援	23.8%	19.8%	-4.0	27.4%	3.6	31.7%	7.9	21.8%	-2.0	17.9%	-5.9
防災	自主防災組織の育成など地域防災力の向上	35.6%	34.3%	-1.3	40.0%	4.4	38.4%	2.8	32.7%	-2.9	32.7%	-2.9
防犯	防犯・交通安全対策の推進	40.0%	38.9%	-1.1	43.3%	3.3	40.8%	0.8	34.6%	-5.4	43.0%	3.0
医療	地域医療体制の整備・救急医療体制の充実	41.5%	39.5%	-2.0	41.3%	-0.2	46.3%	4.8	35.9%	-5.6	43.6%	2.1
保健福祉	健康づくりの支援（健康診断受診促進等）	24.8%	21.0%	-3.8	30.7%	5.9	27.4%	2.6	22.4%	-2.4	23.1%	-1.7
	障がい者への福祉サービス（自立支援等）	26.6%	29.7%	3.1	26.7%	0.1	31.7%	5.1	18.0%	-8.6	26.9%	0.3
	高齢者福祉サービスの充実（介護予防等）	32.4%	36.1%	3.7	31.3%	-1.1	36.6%	4.2	22.4%	-10.0	33.9%	1.5
	子育て環境・体制の整備・支援	34.2%	35.5%	1.3	36.6%	2.4	36.6%	2.4	28.8%	-5.4	33.9%	-0.3
	若年層の定住対策（定住促進奨励金、婚活事業等）	45.4%	43.6%	-1.8	52.0%	6.6	51.2%	5.8	41.0%	-4.4	39.1%	-6.3
	地域福祉体制の整備（地域福祉活動の推進等）	34.1%	36.6%	2.5	32.7%	-1.4	42.1%	8.0	29.5%	-4.6	29.5%	-4.6
	斎場の整備	28.3%	39.6%	11.3	35.3%	7.0	17.6%	-10.7	28.8%	0.5	19.2%	-9.1
	教育	人権の教育・啓発	17.7%	17.4%	-0.3	22.0%	4.3	16.4%	-1.3	16.7%	-1.0	16.7%
文化	小・中学校教育の充実（教育環境の充実等）	30.1%	28.5%	-1.6	38.7%	8.6	28.6%	-1.5	26.9%	-3.2	27.6%	-2.5
	家庭教育の推進	34.6%	34.3%	-0.3	40.0%	5.4	38.4%	3.8	32.1%	-2.5	30.1%	-4.5
	地域での子どもの健全育成の推進	34.1%	36.0%	1.9	37.3%	3.2	35.3%	1.2	29.5%	-4.6	32.0%	-2.1
	歴史・文化の継承（文化財の保全と意識啓発等）	26.9%	23.8%	-3.1	34.0%	7.1	28.0%	1.1	25.0%	-1.9	23.8%	-3.1
	多様な文化・芸術を楽しめる環境づくり	34.5%	29.7%	-4.8	35.3%	0.8	44.0%	9.5	30.1%	-4.4	32.7%	-1.8
	生涯学習の推進	26.3%	23.9%	-2.4	25.3%	-1.0	33.5%	7.2	26.3%	0.0	21.8%	-4.5
	スポーツ環境の整備（スポーツ活動の振興等）	34.7%	36.1%	1.4	38.0%	3.3	38.4%	3.7	31.4%	-3.3	28.2%	-6.5
	都市基盤	快適な住環境の整備	41.1%	43.0%	1.9	42.7%	1.6	45.1%	4.0	36.5%	-4.6	37.2%
公共交通機関の整備・利用促進		49.7%	43.6%	-6.1	47.3%	-2.4	57.4%	7.7	49.3%	-0.4	51.9%	2.2
道路の計画的な整備		48.5%	43.0%	-5.5	56.0%	7.5	45.1%	-3.4	53.2%	4.7	46.8%	-1.7
水道水の安定供給（水道施設の整備と維持管理）		20.9%	19.2%	-1.7	28.7%	7.8	20.7%	-0.2	18.6%	-2.3	18.0%	-2.9
情報通信基盤の整備		29.5%	33.1%	3.6	31.3%	1.8	31.7%	2.2	25.7%	-3.8	25.7%	-3.8
防災基盤の整備（土砂災害対策等）		38.4%	42.4%	4.0	40.7%	2.3	37.2%	-1.2	38.4%	0.0	33.3%	-5.1
農業産業振興		就業しやすい環境の整備（市内雇用の促進等）	63.2%	61.6%	-1.6	66.7%	3.5	68.9%	5.7	63.4%	0.2	55.8%
	活気あふれる商店街づくり	66.8%	63.4%	-3.4	73.3%	6.5	71.9%	5.1	62.8%	-4.0	64.1%	-2.7
	安全・安心な農作物生産の振興	35.3%	33.2%	-2.1	34.0%	-1.3	44.5%	9.2	32.7%	-2.6	32.0%	-3.3
	農業を活かした新しい産業の展開（6次産業化等）	45.2%	43.6%	-1.6	49.3%	4.1	51.2%	6.0	44.2%	-1.0	39.1%	-6.1
	観光地の整備やPRなど観光の振興	51.1%	51.1%	0.0	53.3%	2.2	52.4%	1.3	53.2%	2.1	45.5%	-5.6
生活環境	ごみの減量・資源化等衛生的な生活環境づくり	37.3%	40.1%	2.8	36.0%	-1.3	42.7%	5.4	37.1%	-0.2	30.1%	-7.2
	下水道整備により河川等の水質改善	46.8%	45.9%	-0.9	50.7%	3.9	51.2%	4.4	46.8%	0.0	41.0%	-5.8
自然環境	森林の保全、ふれあい環境づくり	33.7%	30.8%	-2.9	33.3%	-0.4	39.0%	5.3	34.0%	0.3	31.4%	-2.3
	水辺の自然ふれあい環境づくり	36.8%	34.3%	-2.5	38.0%	1.2	41.4%	4.6	36.5%	-0.3	33.9%	-2.9

※各地域の右欄の数値は全体との差。数値が大きいほど「やや不足」「もっとやるべき」に該当する割合が全体より高いことになる。網掛けは5ポイント以上差のある項目。

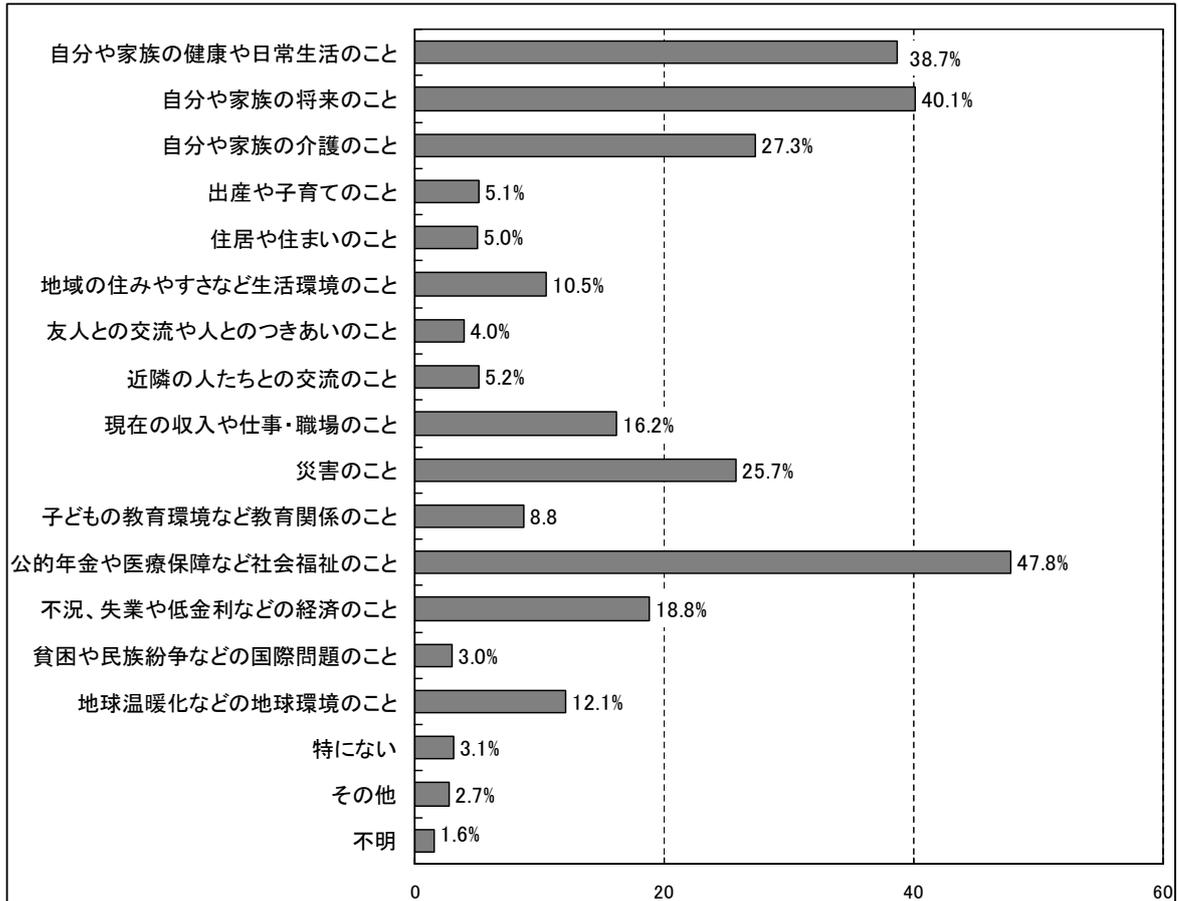
(“やるべき” (「やや不足」「もっとやるべき」の計) の割合)



③興味や関心があること

・市民の興味や関心ごととして最も割合が高いのは、「公的年金や医療保障など社会福祉のこと」で約半数を占める。続いて「自分や家族の将来のこと」、「自分や家族の健康や日常生活のこと」、「自分や家族の介護のこと」と、自分や家族の生活等に関することが上位を占め、次に「災害のこと」、「不況、失業や低金利などの経済のこと」、「現在の収入や仕事・職場のこと」となっている。

問5. あなたが今、気がかりなこと、興味や関心をお持ちのことについて選んでください。



[年齢層別]

・年齢層別にみると、19歳以下では他の年齢層より「災害のこと」「不況、失業や低金利などの経済のこと」への関心割合が高くなっている。

	全体 n=807	19歳以下 n=46	20～29歳 n=60	30～39歳 n=91	40～49歳 n=99	50～59歳 n=118	60～69歳 n=152	70歳以上 n=236
自分や家族の健康や日常生活のこと	38.7	13.0	28.3	26.4	40.4	33.9	44.7	49.2
自分や家族の将来のこと	40.1	43.5	40.0	50.5	45.5	39.0	35.5	36.9
自分や家族の介護のこと	27.3	8.7	10.0	16.5	17.2	24.6	29.6	43.2
出産や子育てのこと	5.1	2.2	23.3	19.8	2.0	1.7	2.0	0.4
住居や住まいのこと	5.0	2.2	10.0	11.0	4.0	6.8	2.0	3.4
地域の住みややすさなど生活環境のこと	10.5	6.5	11.7	7.7	7.1	8.5	12.5	13.6
友人との交流や人とのつきあいのこと	4.0	6.5	3.3	3.3	2.0	0.8	2.6	7.2
近隣の人たちとの交流のこと	5.2	4.3	1.7	2.2	4.0	3.4	3.9	9.7
現在の収入や仕事・職場のこと	16.2	8.7	25.0	28.6	28.3	21.2	13.8	5.1
災害のこと	25.7	34.8	18.3	33.0	27.3	25.4	25.7	22.5
子どもの教育環境など教育関係のこと	8.8	6.5	15.0	23.1	23.2	5.1	2.6	2.1
公的年金や医療保障など社会福祉のこと	47.8	10.9	38.3	35.2	42.4	60.2	61.8	49.2
不況、失業や低金利などの経済のこと	18.8	30.4	25.0	23.1	18.2	26.3	21.1	8.9
貧困や民族紛争などの国際問題のこと	3.0	13.0	5.0	1.1	1.0	4.2	1.3	2.5
地球温暖化などの地球環境のこと	12.1	28.3	8.3	6.6	10.1	9.3	13.8	12.7
特になし	3.1	10.9	3.3	-	2.0	0.8	0.7	5.9
その他	2.7	6.5	3.3	3.3	3.0	1.7	2.0	2.5
不明	1.6	-	-	-	1.0	0.8	0.7	3.4

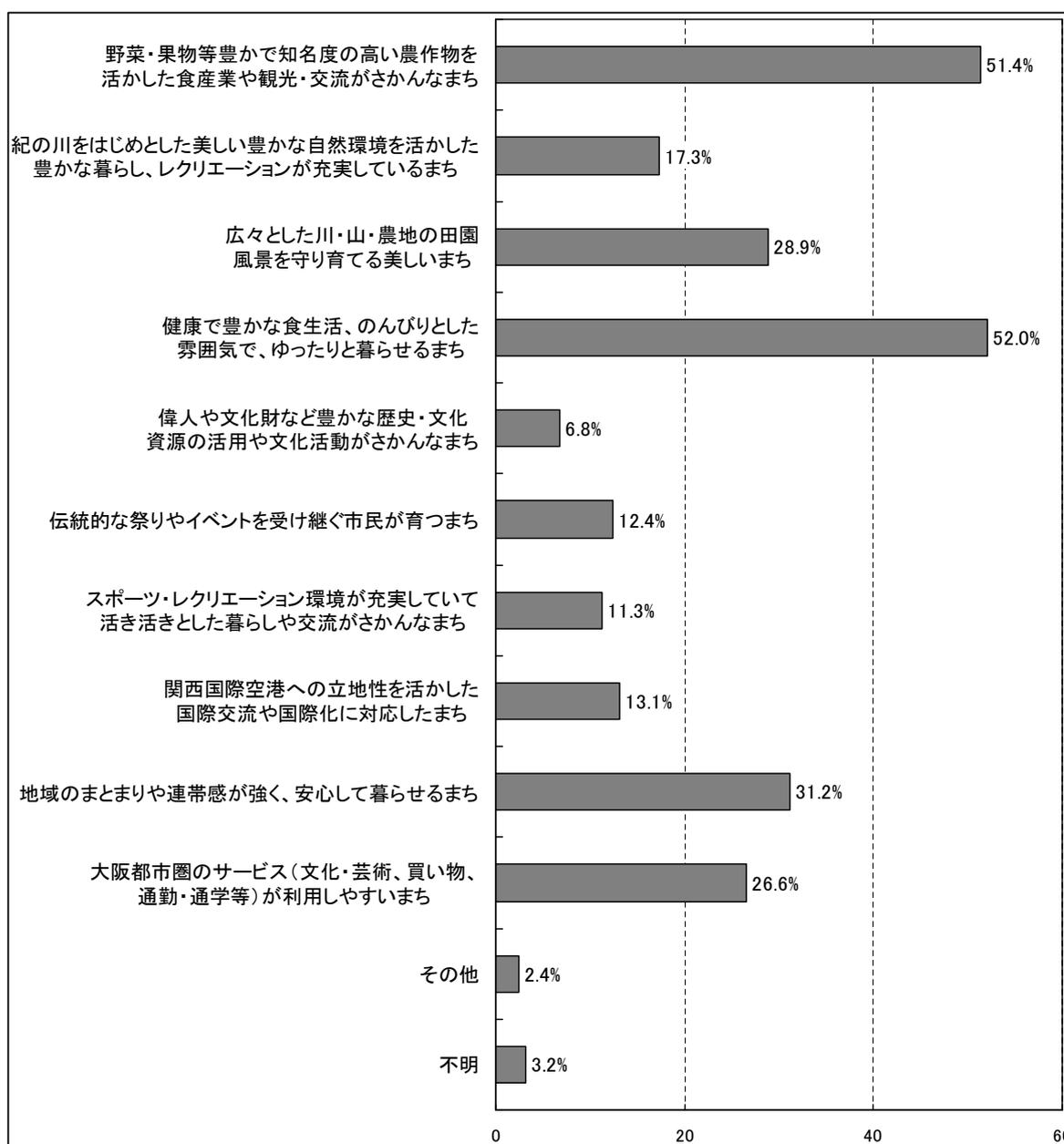
※網掛けは30%以上の項目

3-3. 紀の川市の今後の取り組み方針について

①紀の川市の魅力づくり

・「健康で豊かな食生活、のんびりとした雰囲気、ゆったり暮らせるまち」、「野菜・果物等豊かで知名度の高い農作物を活かした食産業や観光・交流がさかんなまち」が5割を超え、上位を占める。続いて「地域のまとまりや連帯感が強く、安心して暮らせるまち」(31.2%)、「広々とした川・山・農地の田園風景を守り育てる美しいまち」(28.9%)、「大阪大都市圏のサービス(文化・芸術、買い物、通勤・通学等)が利用しやすいまち」(26.6%)となっている。

問6. 今後の紀の川市の取り組み方針を考える上で、他地域の方に誇れる紀の川市の魅力づくりをどのように進めていったらいいと考えられますか。



[年齢層別]

・年齢層別にみると、上位項目について年齢層による大きな差はみられないが、19歳以下で他の年齢層より「広々とした川・山・農地の田園風景を守り育てる美しいまち」の割合が高くなっている。一方、上位項目のうち、「地域のまとまりや連帯感が強く、安心して暮らせるまち」については、20歳代以下では他の年齢層より割合が低い。

	全体 n=807	19歳以下 n=46	20～29歳 n=60	30～39歳 n=91	40～49歳 n=99	50～59歳 n=118	60～69歳 n=152	70歳以上 n=236
野菜・果物等豊かで知名度の高い農作物を活かした食産業や観光・交流がさかんなまち	51.4%	52.2%	56.7%	59.3%	56.6%	55.1%	50.0%	44.9%
紀の川をはじめとした美しい豊かな自然環境を活かした豊かな暮らし、レクリエーションが充実しているまち	17.3%	8.7%	28.3%	19.8%	11.1%	16.9%	18.4%	17.4%
広々とした川・山・農地の田園風景を守り育てる美しいまち	28.9%	39.1%	26.7%	18.7%	23.2%	28.8%	30.3%	33.5%
健康で豊かな食生活、のんびりとした雰囲気、ゆったりと暮らせるまち	52.0%	52.2%	48.3%	49.5%	41.4%	46.6%	64.5%	53.8%
偉人や文化財など豊かな歴史・文化資源の活用や文化活動がさかんなまち	6.8%	13.0%	10.0%	4.4%	8.1%	4.2%	3.9%	8.1%
伝統的な祭りやイベントを受け継ぐ市民が育つまち	12.4%	10.9%	8.3%	8.8%	16.2%	15.3%	10.5%	13.6%
スポーツ・レクリエーション環境が充実していて、生き生きとした暮らしや交流がさかんなまち	11.3%	15.2%	8.3%	12.1%	22.2%	8.5%	10.5%	7.6%
関西国際空港への立地性を活かした国際交流や国際化に対応したまち	13.1%	10.9%	13.3%	18.7%	12.1%	10.2%	17.8%	10.6%
地域のまとまりや連帯感が強く、安心して暮らせるまち	31.2%	15.2%	15.0%	30.8%	31.3%	29.7%	32.9%	38.6%
大阪都市圏のサービス(文化・芸術、買い物、通勤・通学等)が利用しやすいまち	26.6%	21.7%	36.7%	35.2%	33.3%	27.1%	28.3%	17.8%
その他	2.4%	6.5%	1.7%	4.4%	3.0%	3.4%	0.7%	1.3%

※割合の高い順に   

[地域別]

・地域別にみると、上位項目について大きな差はみられないが、打田地域では「広々とした川・山・農地の田園風景を守り育てる美しいまち」の割合が高くなっている。

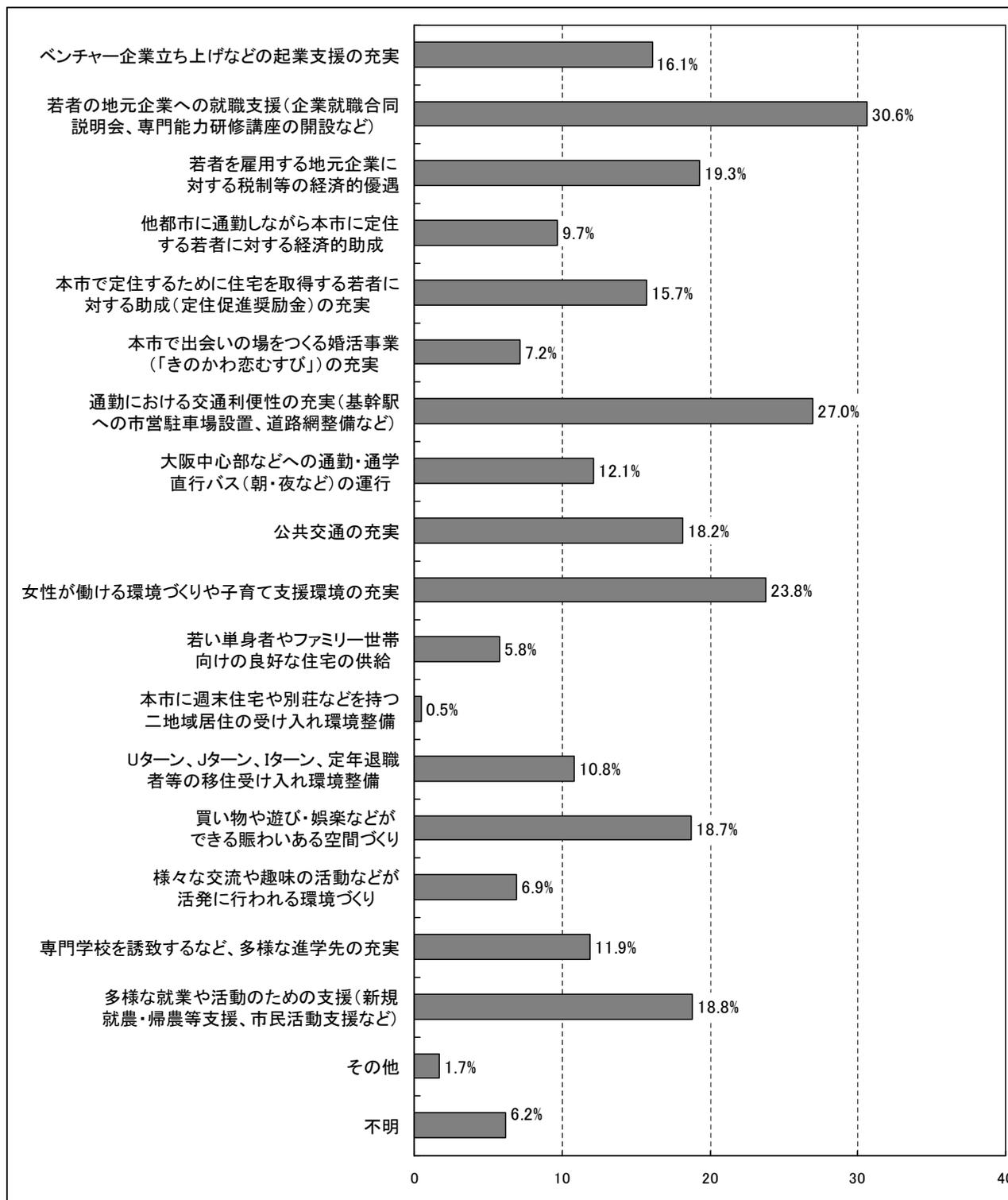
	全体 n=807	打田地域 n=172	粉河地域 n=150	那賀地域 n=164	桃山地域 n=156	貴志川地域 n=156
野菜・果物等豊かで知名度の高い農作物を活かした食産業や観光・交流がさかんなまち	51.4%	47.7%	52.7%	48.8%	60.3%	50.0%
紀の川をはじめとした美しい豊かな自然環境を活かした豊かな暮らし、レクリエーションが充実しているまち	17.3%	18.0%	14.7%	22.0%	14.1%	16.7%
広々とした川・山・農地の田園風景を守り育てる美しいまち	28.9%	37.2%	25.3%	26.2%	29.5%	25.6%
健康で豊かな食生活、のんびりとした雰囲気、ゆったりと暮らせるまち	52.0%	53.5%	48.0%	50.0%	55.1%	54.5%
偉人や文化財など豊かな歴史・文化資源の活用や文化活動がさかんなまち	6.8%	5.2%	6.0%	12.2%	6.4%	3.8%
伝統的な祭りやイベントを受け継ぐ市民が育つまち	12.4%	9.3%	19.3%	14.6%	12.2%	7.7%
スポーツ・レクリエーション環境が充実していて、生き生きとした暮らしや交流がさかんなまち	11.3%	11.0%	12.7%	9.1%	10.3%	12.8%
関西国際空港への立地性を活かした国際交流や国際化に対応したまち	13.1%	16.9%	14.7%	12.2%	10.9%	11.5%
地域のまとまりや連帯感が強く、安心して暮らせるまち	31.2%	27.9%	34.7%	29.9%	33.3%	30.8%
大阪都市圏のサービス(文化・芸術、買い物、通勤・通学等)が利用しやすいまち	26.6%	26.7%	27.3%	27.4%	25.0%	27.6%
その他	2.4%	1.7%	4.0%	1.2%	1.9%	3.2%

※割合の高い順に   

②定住促進施策について

- ・「若者の地元企業への就職支援（企業就業合同説明会、専門能力研修講座の開設など）」、「通勤における交通利便性の充実（基幹駅への市営駐車場設置、道路網整備など）」、「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」などの項目が高くなっている。

問7. 今後、次代を担う若年層などの定住促進に向けて、どのような施策を強化していく必要があると思われますか。



[年齢層別]

- ・年齢層別にみると、子世代が住宅取得期を迎えると考えられる50歳代では「本市で定住するために住宅取得する若者に対する助成(定住促進奨励金)の充実」、「Uターン、Jターン、Iターン、定年退職等の移住受入環境整備」の割合が高くなっている。また、19歳以下、30歳代で「大阪中心部などへの通勤・通学直行バス(朝・夜など)の運行」の割合が高くなっている。

%

	全体 n=807	19歳以下 n=46	20～29歳 n=60	30～39歳 n=91	40～49歳 n=99	50～59歳 n=118	60～69歳 n=152	70歳以上 n=236
ベンチャー企業立ち上げなどの起業支援の充実	16.1	13.0	10.0	12.1	20.2	13.6	19.7	17.4
若者の地元企業への就職支援(企業就職合同説明会、専門能力研修講座の開設など)	30.6	37.0	38.3	26.4	32.3	38.1	29.6	25.4
若者を雇用する地元企業に対する税制等の経済的優遇	19.3	17.4	25.0	13.2	17.2	12.7	21.1	24.2
他都市に通勤しながら本市に定住する若者に対する経済的助成	9.7	15.2	8.3	14.3	9.1	5.9	7.9	10.6
本市で定住するために住宅を取得する若者に対する助成(定住促進奨励金)の充実	15.7	4.3	16.7	8.8	14.1	20.3	17.8	17.4
本市で出会いの場をつくる婚活事業(「きのかわ恋むすび」)の充実	7.2	6.5	6.7	6.6	3.0	2.5	9.9	10.2
通勤における交通利便性の充実(基幹駅への市営駐車場設置、道路網整備など)	27.0	32.6	23.3	30.8	31.3	29.7	27.6	22.0
大阪中心部などへの通勤・通学直行バス(朝・夜など)の運行	12.1	23.9	11.7	20.9	16.2	9.3	11.2	7.2
公共交通の充実	18.2	21.7	21.7	22.0	19.2	18.6	14.5	17.4
女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実	23.8	19.6	26.7	33.0	24.2	22.9	27.6	18.2
若い単身者やファミリー世帯向けの良好な住宅の供給	5.8	4.3	10.0	14.3	4.0	5.1	5.9	3.0
本市に週末住宅や別荘などを持つ二地域居住の受け入れ環境整備	0.5	-	-	2.2	1.0	0.8	-	-
Uターン、Jターン、Iターン、定年退職者等の移住受け入れ環境整備	10.8	-	10.0	7.7	8.1	20.3	14.5	8.5
買い物や遊び・娯楽などができる賑わいある空間づくり	18.7	32.6	28.3	26.4	26.3	16.9	11.8	12.7
様々な交流や趣味の活動などが活発に行われる環境づくり	6.9	8.7	-	7.7	7.1	9.3	5.9	7.6
専門学校を誘致するなど、多様な進学先の充実	11.9	10.9	5.0	16.5	15.2	5.9	15.1	11.9
多様な就業や活動のための支援(新規就農・帰農等支援、市民活動支援など)	18.8	8.7	15.0	13.2	19.2	22.0	23.0	19.9
その他	1.7	-	3.3	2.2	4.0	0.8	0.7	1.3
不明	6.2	2.2	1.7	1.1	2.0	2.5	3.3	14.4

※網掛けは20%以上の項目

[地域別]

・地域別にみると、桃山地域で「本市で定住するために住宅を取得する若者に対する助成（定住促進奨励金）の充実」の割合が他地域に比べ高くなっている。また「公共交通の充実」は那賀地域、桃山地域で、「買い物や遊び・娯楽などができる賑わいある空間づくり」は打田地域以外で割合が高くなっている。

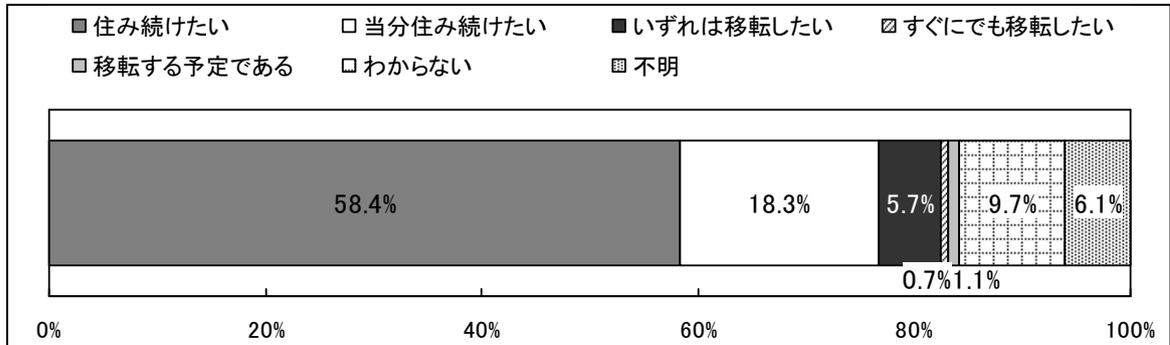
	%					
	全体 n=807	打田地域 n=46	粉河地域 n=60	那賀地域 n=91	桃山地域 n=99	貴志川地域 n=118
ベンチャー企業立ち上げなどの起業支援の充実	16.1	15.1	12.0	21.3	12.2	19.9
若者の地元企業への就職支援(企業就職合同説明会、専門能力研修講座の開設など)	30.6	29.7	34.0	40.2	23.7	25.0
若者を雇用する地元企業に対する税制等の経済的優遇	19.3	20.9	27.3	20.7	14.1	14.1
他都市に通勤しながら本市に定住する若者に対する経済的助成	9.7	10.5	10.7	11.6	10.9	5.1
本市で定住するために住宅を取得する若者に対する助成(定住促進奨励金)の充実	15.7	11.6	18.7	11.0	21.2	17.9
本市で出会いの場をつくる婚活事業(「きのかわ恋むすび」)の充実	7.2	8.7	8.7	7.3	5.8	5.8
通勤における交通利便性の充実(基幹駅への市営駐車場設置、道路網整備など)	27.0	21.5	27.3	22.0	35.3	30.1
大阪中心部などへの通勤・通学直行バス(朝・夜など)の運行	12.1	11.0	10.7	12.2	16.0	9.6
公共交通の充実	18.2	17.4	11.3	22.6	21.8	17.9
女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実	23.8	27.3	23.3	22.6	22.4	23.7
若い単身者やファミリー世帯向けの良好な住宅の供給	5.8	5.2	7.3	4.3	6.4	6.4
本市に週末住宅や別荘などを持つ二地域居住の受け入れ環境整備	0.5	0.6	-	1.2	0.6	-
Uターン、Jターン、Iターン、定年退職者等の移住受け入れ環境整備	10.8	11.6	10.7	11.6	10.3	9.6
買い物や遊び・娯楽などができる賑わいある空間づくり	18.7	11.0	20.0	20.1	23.1	21.2
様々な交流や趣味の活動などが活発に行われる環境づくり	6.9	6.4	7.3	6.1	6.4	9.0
専門学校を誘致するなど、多様な進学先の充実	11.9	15.7	12.0	8.5	9.0	14.7
多様な就業や活動のための支援(新規就農・帰農等支援、市民活動支援など)	18.8	20.3	17.3	17.1	19.9	19.9
その他	1.7	0.6	4.0	1.8	1.3	0.6
不明	6.2	9.9	6.0	3.0	5.1	4.5

※網掛けは20%以上の項目

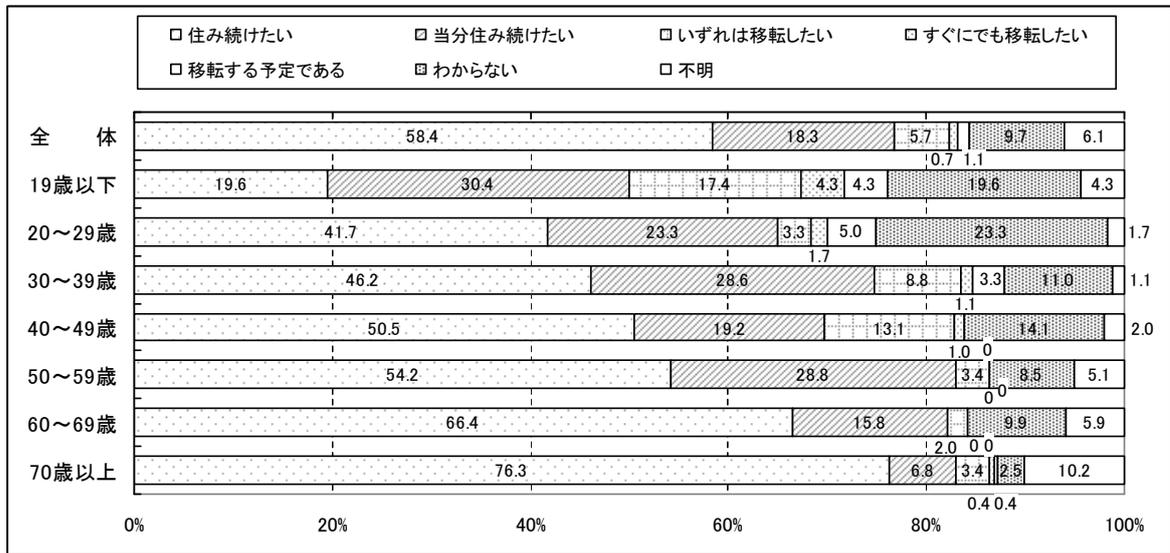
③住続意向

- ・「住み続けたい」、「当分住み続けたい」あわせて 8 割近くが住続意向を示している。一方、移転の意向・予定があわせて 8%程度みられる。
- ・年齢層別にみると、若年層ほど住続意向は低くなる傾向にあり、19 歳以下では「いずれは移転したい」が 2 割近くを占める。また、地域別では那賀地域で他地域より住続意向が低くなっている。

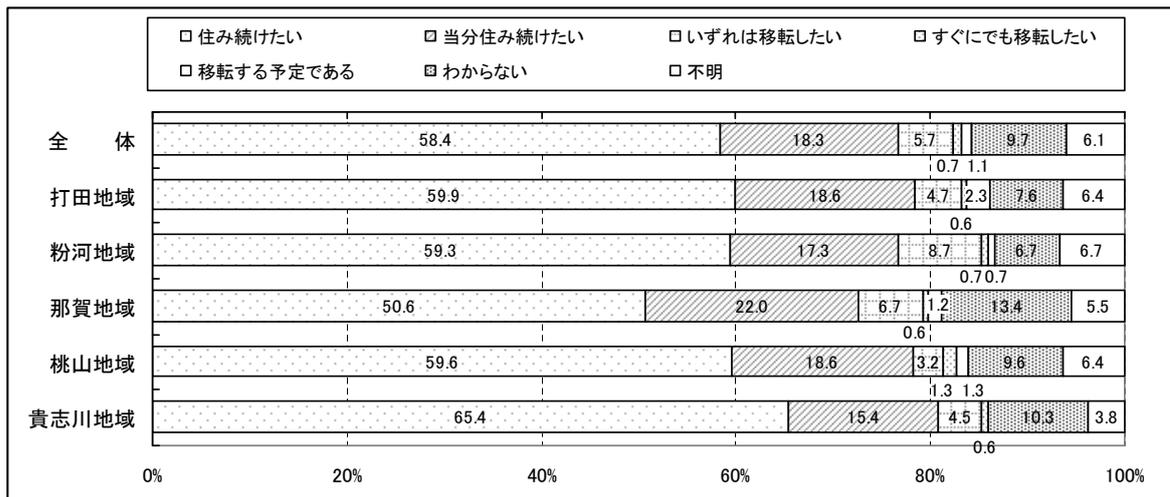
問8. これからも紀の川市に住み続けたいと思いますか。



[年齢層別]



[地域別]

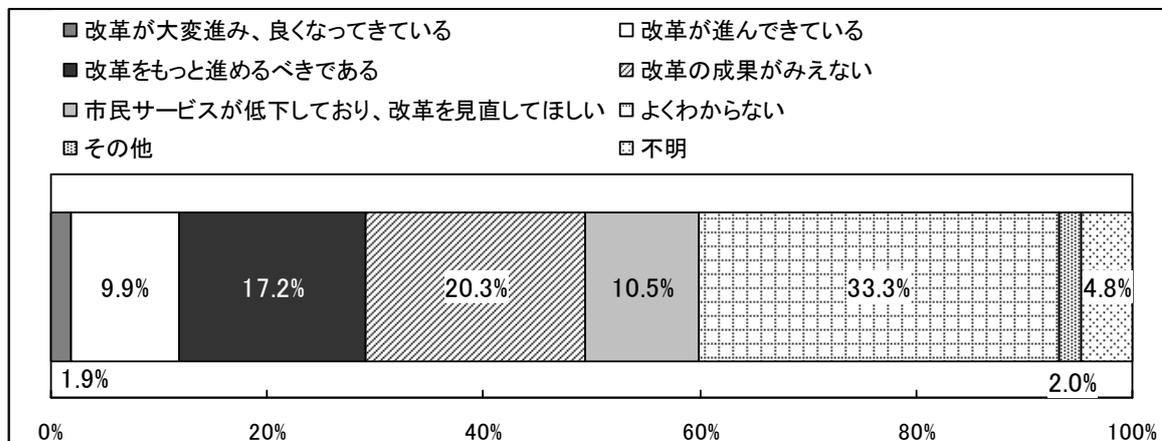


3-4. 紀の川市における行財政改革について

①行財政改革について

- ・「よくわからない」が最も多く 33.3%を占める。続いて「改革の成果がみえない」(20.3%)、「改革をもっと進めるべきである」(17.2%) との意見が多くなっている。

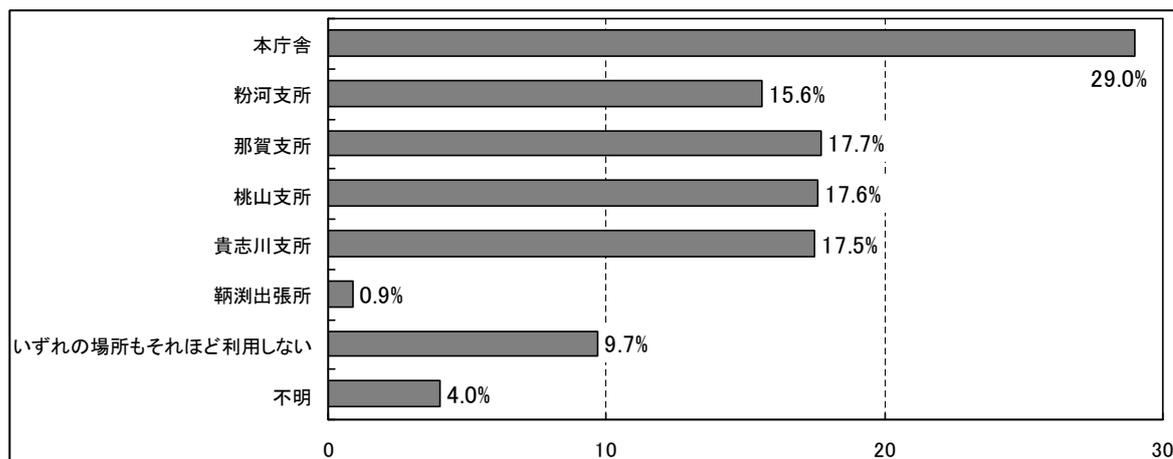
問9. 紀の川市の行財政改革について、どのように感じておられますか。



②行政窓口の利用について

- ・本庁舎が最も多く、約3割が利用している。各支所についてはいずれも16%前後と同程度の利用割合となっている。

問10. 行政窓口として、あなたが普段利用される場所はどこですか。

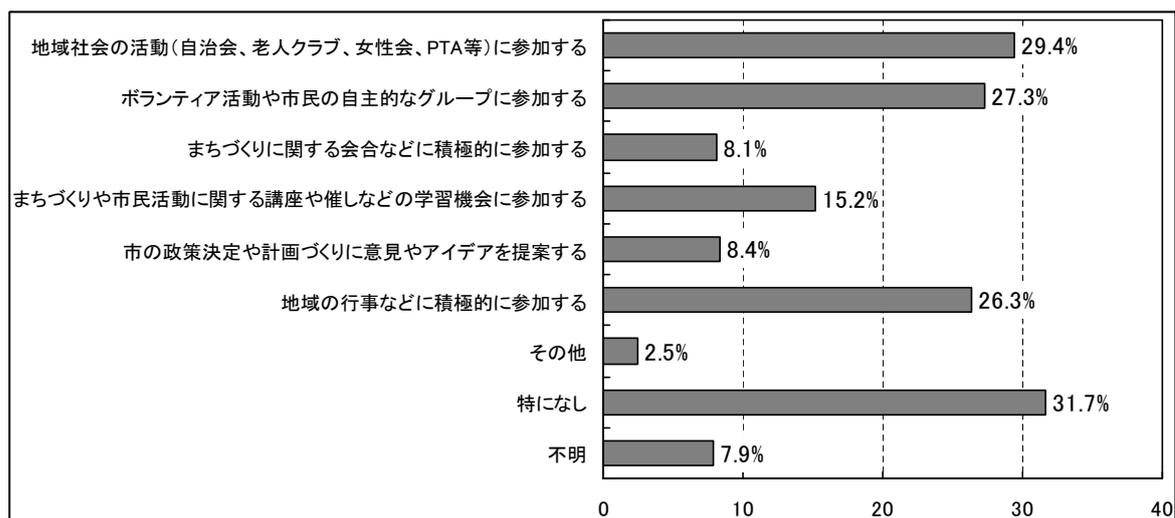


3-5. 今後の市民と行政の協働について

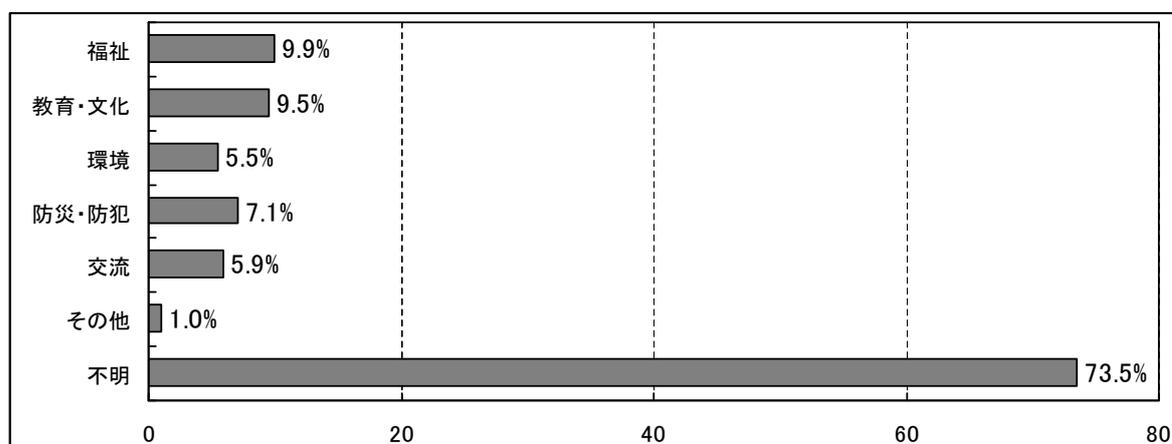
①まちづくり活動への参加意向

- ・「地域社会の活動（自治会、老人クラブ、女性会、PTA等）に参加する」、「ボランティア活動や市民の自主的なグループに参加する」、「地域の行事などに積極的に参加する」などの意向が高くなっている。一方「特になし」が3割程度と高くなっている。
- ・「ボランティア活動や市民の自主的なグループに参加する」について、参加したい活動内容としては、順に福祉、教育・文化、防災・防犯となっている。

問 11. 協働によるまちづくりを進め、地域をより良くしていくために、あなたは今後、どのような活動に参加したいと思いますか。



(「ボランティア活動や市民の自主的なグループに参加する」を選択した方) 参加したい活動内容



②協働によるまちづくりを進めるための取り組み

- ・「市民と行政が情報の共有を図るための積極的な情報公開」、「市民や地域の意向・要望を市政に反映させる仕組みづくり」などの意向が高くなっている。

問 12. 協働によるまちづくりを進めるために、紀の川市はどのような取り組みを充実すべきと考えますか。

